聖 徒 の 道
1970年 4月20日発行（毎月 1 回20日発行）第14巻 第4 号
昭和42年12月18日第三種郵便物認可

聖徒の道 1970 4

心の糧

第一副管長　ハロルド B. リー

青少年は，昨日の子供であり，明日の両親である。今日の青少年がどのようなものであるかは，主として子供の時に学んだことにかかっており，現在学ぶことが未来の行ないになるのである……。

使徒パウロは，「愛する子へ」とテモテに呼びかけた手紙の中で，立派な名前と気高いゆずりの価値が大きいことを強調して述べている。「また，あなたがいだいている偽りのない信仰を思い起こしている。この信仰は，まずあなたの祖母ロイスとあなたの母ユニケとに宿ったものであったが，今あなたにも宿っていると，わたしは確信している」（Ⅱテモテ１：５）……

若い時に，人は良い家庭の影響を離れて軽率になり，わがままになるかもしれない。しかし，幼い時に良い母親の教訓が心にしっかりと植えつけられている人なら，嵐の中で船が錨にもどれるように，無事に教えに立ちかえることができる。

——もくじ——

予言者のことば

若人よ，ゆだねられたることを守れ……故デビド O. マッケイ大管長……88

自らを励ますこと……トルーマン G. マドセン……90

未来ある世代……ケネス W. ゴッドフリー……93

原　則……マリオン D. ハンクス……95

第一にすべきこと……リード H. ブラッドフォード……99

標準がなければ……リチャード L. エバンズ… 102

管理監督のページ

職業の選択……ジョン H. バンデンバーグ… 103

心の触れ合い……ホイト W. ブルスター，Jr.… 104

裁きのイエス……ダリン H. オークス… 107

扶助協会

1970年代の秘訣……マーベル・ジョーンズ・ガボット… 109

祈りの時……ビクター B. クライン… 111

日本中部伝道部メッセージ……バーナード P. ブロックバンク…… 113

ローカル・ニュース…… 114

結婚を守るもの……リチャード L. エバンズ…裏表紙

子供のページ

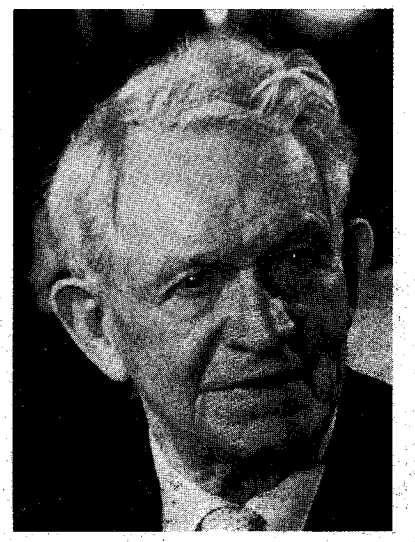
リーダーにつづけ……ヘイゼル・スワンソン……10

雷　雨……ルシール C. リーディング……13

今月の表紙

あらゆる国民，国語の民は福音の喜びと祝福にあずかることができる。今月の表紙は世界中の末日聖徒の若人14名の姿である。民族衣装をつけている彼らは，12才から26才まで750,000人の末日聖徒を代表している。この写真は昨年のＭＩＡ６月大会におけるダンス・フェスティバルの際に撮影された。今月号の主題は若人である。

（この記事は１月18日逝去される前に書かれたものです）



故　デビド　O.　マッケイ大管長

若人よ
ゆだねられたることを守れ

使徒パウロは若き宣教師テモテにあてた手紙の中で次のように書いた。

「あなたは，年が若いために人に軽んじられてはならない。むしろ，言葉にも，会話にも，愛にも，意気にも，信仰にも，純潔にも，信者の模範になりなさい。」（欽定訳Ｉテモテ　4:12）

パウロと時の絶頂の神権時代における教会の指導者たちはこの時満ちたる神権時代の我々と同様に，当時の若人にも力と勇気と確信があることを確かに知っていた。

パウロは次の言葉で手紙を結んでいる。

「テモテよ。あなたにゆだねられていることを守りなさい。」（Ｉテモテ　6:20）

すべての人は信頼されており，それを大切にすべきである。「信頼されることは愛されることに優る贈物である」とうがった表現をした人がある。

日々，何か行動する際には勇気が必要である。道徳的勇気をもって落着きのある行動をしようではないか。歴史のページには，ゆだねられたことを守るために，多くの困難に直面した人々，また死に至るまでも誠実であった人々の輝かしい出来事が載っている。

ポテパルの妻の策略により誘惑を受けたエジプトのヨセフ，バビロンの神を恐れぬ支配者を前にしたダニエル，ユダヤの参議会の前に立ったペテロとヨハネ，アグリッパ王の面前で捕われたパウロ，投獄された時神を冒瀆した看守を沈黙させたジョセフ・スミス，その他多数の人類の指導者たちは，「ゆだねられたる」宝を守るために必要な力を充分に発揮してきた。

我々にまかされている貴重な賜のほとんどは，努力なしに与えられ，時には我々に価値がないと思われているものもある。生命自体が賜であり，強い身体と健全な心もまた賜である。健康は富である。たとえ話の放蕩息子のようにおろかにもその富を浪費する人々もある。

健全な精神は健全な身体に宿る。身体の健康と心の平安こそ人に幸福をもたらすのである。

純血種の神経過敏な馬をむち打って跳び上がらせる者を，愚かな騎手と我々は非難する。またこのように良い馬を台無しにしてしまう者を我々は無知でだめな騎手であると考える。

刺激物により若い神経を麻痺させ，健全な良心を，ひそかな罪深い行為によっていためつける者にも，愚かな騎手と同じことが言えるのである。力と才能は神聖な賜として各人に与えられたのである。

若い人々は時折，流行を追い求めることに心を奪われる。健康と徳を代価にしてまでも執ように流行を追い求める者は愚かである。

実際，仲間と共に流行を追い求めたいという誘惑に負ける者は，望むものを失うが，一方標準を守って生活する者は尊敬を勝ち得る。

我々の努力とは無関係にもたらされる賜の一つに，良い名前がある。受けついだ良い名前を汚れなきものとしておくのは，若人に課せられた最も大きな責任の一つである。

若人に与えられてきた大切な勧告の一つはこれである。あなたにゆだねられた良い名前を守りなさい。すべての若人が息子であることに伴う責任を感じていただきたいのである。

我々に託されている第三の責任は，教会に関する良い評判を維持することである。我々の行動は明らかに全教会員に影響を及ぼすのである。この世に存続するわが教会は立派な人々を生みだす教会である。我々は教会の恩恵を受け，教会は我々を助けてくれた。今や教会を助けることこそ我々の務めである。それに対して教会は，我々が反対する人々の中にあっても，教会の標準をしっかりと守り続けるに充分な勇気を持つことを求めている。

その標準は信仰箇条第13条の中で見事に要約されている。

「われらは，正直，真実，貞潔，慈善，高徳なるべきこと，およびすべての人に善を行うべきを信ず。まことにパウロの訓戒に従うというを得べく，われらはすべてのことを信じ，すべてのことを望む。すでに多くのことを堪え忍びたれば，あらゆることを堪え忍び得んことを望む。もし何にても，徳高きこと，好ましきこと，よき聞えあること，あるいは褒むべきことあらば，われらはこれらをたずねもとむるものなり。」

神よりのもう一つの賜は，我々自身が求め，正しい生活をすることによってのみ得るものである。それはキリストの神たることを信じることからもたらされる自信と安心感である。

ヨブの話の中には，主から望むすべての祝福を授けられたことが出ている。ヨブは美しい家庭と立派な息子と娘たちを持ち，広大な耕地，家畜の群と召使たちを持っていた。世の富はヨブの手中にあり，多くの友を持ち，良い評判を得ていた。彼は人々から尊敬され，神に愛された。しかし，これらすべてのものは突然にヨブから奪われてしまった。シバびととカルデヤびとの略奪，死と火によって，ヨブはその家畜の群としもべとを失った。大風が家を撃ち，ヨブの息子と娘は死んだ。ヨブ自身はいやな腫物に悩まされ，それがあまりにもひどいので彼は人をさけて退いた。ヨブは陶器の破片を取り，それで自分の身をかき，灰の中にすわった。ヨブは妻のなぐさめをさえ奪われた。妻は「神をのろって死になさい」とヨブに言った。（ヨブ　2:9）

しかしながら，ヨブは盗人も，火も，暴風雨も，また死でさえも彼から奪うことのできないものをまだ一つ持っていた。それは生ける神に対する彼の証であった。この苦悩の最中に，彼をなぐさめようとした人々の前でヨブは次のように叫んだ。

「わたしは知る，わたしをあがなう者は生きておられる。末の日に彼は必ず地の上に立たれる。わたしの皮のうじがこの体を滅ぼしたのち，わたしは肉にあって神を見るであろう。しかもわたしのこの目で見るであろう。わたしの見る者はこれ以外のものではない。わたしの心はこれを望んでこがれる。」（欽定訳ヨブ19:25—27）

このような証は人生の最大の賜である。それは，怠惰でなく勤勉，不正でなく公正，放縦でなく自己統御，泥酔でなく禁酒，放蕩でなく慈善，憎悪でなく愛，疑いや恐れでなく信仰の生活をする時に得られる。すなわちイエスの次の約束に従う時に得られるのである。「神のみこころを行おうと思う者であれば，だれでも，わたしの語っているこの教えが神からのものか，それとも，わたし自身から出たものか，わかるであろう。」（ヨハネ　7:17）

福音の原則を実践することが悩み多き世に平和と幸福をもたらし，イエス・キリストの福音が完全なままに地上に回復されたという確信は，「高価な真珠」として大切にすべきものである。（マタイ 13:46参照）

健康の賜，良い名前の価値，教会から与えられる祝福と機会，神の存在，御子の神聖な使命，キリストの福音の回復についての証を得る方法，手段，機会など，教会の若人に与えられてきた賜のいくつかについて私は列挙しただけである。

我々の手中にあるこれらの賜と責任を，パウロの訓戒をもっておきかえることができる。

「若人よ。あなたにゆだねられていることを守りなさい。」

あなたがたがそのようにする力を神が与えたもうよう祈ってやまない。

自らを励ますこと

トルーマン　G. マドセン

1975年までに，大学生の年令に達する末日聖徒の数はおそらく25万人になるであろう。また彼らに続いて，おそらく毎年５万人以上の10代の若者が加わり，10年毎に２倍になっていくであろう。

彼らはどこにいるのか。彼らの大多数はもはやアメリカのロッキー山中にだけいるのではなく，東京，ロンドン，ヨーロッパ，オーストラリアなど，あらゆる国にもいるのである。現在これらの若者の中から宣教師が多くの国々に向かって召されているが，アメリカからだけでなく，他の多くの国民の中からも送り出されている。

＊トルーマン　G. マドセンは
ブリガム・ヤング大学のモルモン・スタディ神学講座の校長であり，現在学位取得後一年間の研究のため，ハーバード大学におもむいている。

教会の若者の情緒を詳しく調べて見ると，一般の若者と同様にごくあたりまえの人たちであることがわかる。すなわち，若者は自分たちの役割を見出そうとする際には，気が変わりやすく，じっとしていられず，不安定である。またしばしば孤独におちいり，ささいな心配事を大げさに言う。

しかし，教会の若者には普通の人たちと違ったところもある。人種や性格の違いがあるにもかかわらず，教会の若人の間には，敵意を抱いて見る者にさえわかる何かよい類似点が見られる。彼らとじかに，または彼らを最もよく知っている人々と交わってみれば，その原因が何であるかをかなり知ることができる。

若人には四つの著しい傾向がある。すなわち，(1)自己認識の必要。(2)ほぼそっくりそのままに模倣するための模範の必要。(3)有意義な目標および使命感の必要。(4)家庭愛を享受し，これを創造する必要。宗教的な必要に対する数多くの質問はどうなったであろうか。宗教的必要はすぐ目の前にあるのだが隠れている。なぜなら，詳しく調べてみると，上に挙げた四つの必要はみな一つの原因，すなわち何かを信じ，だれかを崇拝する必要といった，単なる望み以上の大きなやむにやまれぬ必要からきているのである。宗教的必要は，視野の狭さ，気おくれ，全く混乱した状態という形であらわれるかもしれないが，いずれにしても確かにあらわれてくるのである。だから若人は自らを批判しすぎることをやめ，自らを励ますことが可能なのである。

しかし，どのように？

カウンセリングをして今までいろいろな方法がとられてきたが，うまくいかないことが多かった。その原因の一つは，放蕩息子の譬えばなしを再現したような情にもろい放縦である。もう一つは，絶えず大人の偽善にかくされた，まことの愛のない厳しすぎるしつけのせいである。どちらも子供を孤立させることで危険である。概してこれらの子供たちは高校へ行く前に，王国の秩序に関しては，非常に低い事柄しか教えてくれないテレビという「ウリムとトミム」で15,000時間も費してしまうのである。そして大都会であろうが町であろうが，ちょっと外出し，ほんのわずかなお金を使えば，彼らは現代のゴモラに行ける。死の灰にみまわれたような最悪の世界が彼らと共にある。ヒーバー C. キンボール長老が次のように言われた。「主は聖徒らを清めんがため，シオンに来たるあらゆる憎むべきものを放置したもう」。その憎むべきものが来るのに長くはかからなかった。

無傷を守り続けている人も多いが，そうでない人があまりにも多い。（たとえ一人であっても多すぎる。）過去10年間に，私たちは数多い改宗者を見てきたが，彼らはほとんどありとあらゆる主義や観念に触れて傷を受けなかったわけではない。これら若人の中には，鉄の肺に入っていた悪い状態から急にソークワクチンを見出して治療をしようとするような状態のものもある。改宗した若人は，教会に生まれながら無関心な若人たちが，知的にも社会的にも無益な目的にまどわされている姿を見て，どうしてそのような状態があるのかと非常に悩んでいる。そしてしばしば彼らの警告のことばにはだれも答えられないのである。このように，驚くほど若い時に，未熟ながらも，キリストのような状態を目ざす若人が生まれる。それは彼らが他にとるべき道を知らないからではなく，実際にあるいは人を通して，二者択一のいずれの道をも知っているからなのである。

自己認識

若人が直面している最もさし迫った，時には気をめいらせる疑問は，「私は何者か」ということであると言われている。これは若人の束の間の夢とまだ実現されていない生来なすべきこととの間にある，実に世代からくるギャップである。

若人は一方を捨てて他方をとるようには必ずしも求められてはいないが，彼らが「己れのこと」をしっかりとなすことこそ，キリストが望まれることをなすことであると気づき始める。その時彼らの中に光の重なり合った新しい色あいを見ることができる。そしてそれはただ行動することだけでなく，若人が実際にあるべき状態になることから起こるのである。ある人はまだそのような状態になることをあまり望んではいない。彼らはいぜんとして争いに巻き込まれることも多く，キリストが示された条件に基いて得られる偉大さを求めることも，またキリストが若人に全力をつくして報いてほしいと望んでおられることにこたえる準備もできていない。

模倣

若人は，魅惑的な歌手や映画俳優の咳ばらいに至るまでまねをし，崇拝のファンレターを書き，調子のいい話をして互いに励まし合うものであると時には憂いの意味を込めて言われている。

しかし，内面的に，若人は宗教講座の先生，コーチ，伝道部長などに対しても同様にまねをしているように見うけられる。若人はほとんど知らないうちに，驚くほどの正確さをもって，霊的な洞察力の鋭さに従うものである。それで大学にあって尊敬のまととなってしまう人もある。だから，若人が主なるキリストを釈き明かす教師すなわち模範を示す人に近づくことはすばらしいことである。模範によりキリストのような状態を見，感じとってもらえるのである。（マッケイ大管長の言われる若人の「聖典に対する無学」と呼ぶ状態が私たち自身の無学をあらわしていることは悲しいことである）。啓示によると，生きた信仰は教え込まれるというよりはむしろ羊飼いキリストの御声を聞いて，自然に芽ばえてくるもの

である。私たちは高慢な気持から主の御声によらないで自分たち自身で教え込もうとする。模範を示す者として私たちが出会う主な困難は，時々充分卒直に振舞えないことである。若人は模範を見さえすれば，救い主御自身の姿を知ることができる。

要するに彼らは目で見るものはすべて信じるのである。そして時々私たちの中にある主のものに，彼らは感謝をするに至るのである。「その時汝らはわれを見たることを，われ在ることを，またわれは汝らの中にある真の光にして汝らが中にあることを覚らん。然らざれば汝ら充ち満つること能わざらん。」（教義と聖約88：50）

使　　命

人々は，若人があらゆる良いことにどうしても反対しようとすると苦情を言う。若人はなんでも一応やってみなければ気がすまないのである。私たちはどのようにして彼らに神聖な事柄をゆだねられるであろうか。私たちがこんな質問をすると，主と若人とのへだたり以上に主と私たちとのへだたりが明らかに大きくなる。主は近代の啓示であえて次のように言っておられる。

若人は「天より権能を与えられて」，全世界に出で行き世と戦うために召されている。

予言者ジョセフ・スミス（おそらく永遠という問題が14歳の彼の双肩にかかっていたことを思い出されることであろう）は，かつて西方を望みながら次のように述べた。「私は出で行くすべての人が王となり，祭司となることを夢見ている。（しかし，これらの人々はまだ若者であった）彼は山々に達する時，神と共に語らんと欲するであろう。」彼らはそのようになり，そのようにした。

それこそが使命である。

そうであれば，神がアロン神権者に「教会員の中に邪曲なきよう注意」する責任を与えておられることは，別におかしなことではないであろう。（教義と聖約20：54）さらに述べられている。「彼らは教会員の信仰を強め，道をはずれる者が悔い改め，主にたちかえって生きるよう説得すべきものとす。」（予言者ジョセフ・スミスの教え　P.77英文）

まさにその通りのことが起こっている。第一に，若人が教会プログラムの中心になっているということが，大人のあやまちをさけ，さらに自ら次代のためによりよい備えをすることにより，ますます成長するという効果をあげているのである。ＭＩＡの先生に尋ねてみるとわかるであろう。第二に家を離れている若人の影響力をあげることができる。若人は，兵役にあるものも含めて，海に陸に伝道の旅をしている。世界中にいるこれらの若人は長老に聖任されている。将校が目を見張って「変わり種」と呼ぶこれらの誠実でいわゆる遊ばない兵士たちは，ある意味で従軍牧師を必要としない。真の意味で彼らはみな自分たちが従軍牧師だからである。

また，第三に多くの若人が福音を受け入れ実践するために何千年にもわたる伝統に反抗してきたし，そのため家族と別れを告げた者もあった。例外もあろうが，「……わが若人……わが家の力……」（教義と聖約101：55）と近代の聖句は正確に述べている。

家　庭　愛

最後に若人は，非常に幼い時から，どのような境遇にあろうとも，愛に憧れている。この点に関してはいくらでも理由を挙げることができる。天の家庭のような特別に恵まれた境遇にあろうが，（ある研究者が若人の65パーセントがそうであると言っているように）支えのない家庭，全くみじめな離婚家庭などにあろうとも，若人はこの点に深い関心を抱いている。

家庭を人が内的に永遠に求めるもの，まさしく人間完成の究極の場であるとはっきり認めている世界で唯一の教会に，若人は属しているのである。しかし，そのことは小さな女の子に向かってミロのビーナスの方が彼女のぼろ人形よりも美しいと言うようなたぐいのことである。あることを忘れたり，望みを抱くことにより，はじめてある種の成長が起こるものである。しかし，そのような成長は，ほぼ13歳から30歳の間に次のように感じることにより，ゆっくりとやってくる。すなわち，力強い愛は結婚なしでは得られない，幸福な結婚はキリストと切り離しては考えられない，また夫婦の愛は子供たちなしで最もすばらしいものにはなり得ないと感じるようになるのである。

このような愛は礼拝，すなわちすばらしい慈愛に満ちた崇拝の気持へと次第に変わっていく。なぜなら，それがキリストの持ちたもう愛の姿だからである。

これらの若人は退歩の流れに反対して進んでいる。パーレーＰ．プラットはそのことを次のように予言していた。

「人類を進歩させ，生まれ変わらせるために，これらの純粋な律法と慣習の回復が始まった。聖く慎しみ深い生活，清い道徳と生活態度，信仰，希望，愛，明朗，温和，誠実，知的成長，真理と知識，とりわけ神のみたまの働きが，人類の姿かたちをより美しくし，人類を強め，活気あるものとし，性質を明かるくし，知性を得させ，悪意を少なくし，また長生きをしてこの世で良き日々を過ごす備えをさせてくれるであろう。」（「神学への鍵」デゼレト出版社，1965年ＰＰ．167―68）

1　教義と聖約　38：32，38参照
2　ミロのビーナス，ギリシャの彫刻，おそらくＢ．Ｃ．110年から88年の間に作られた。

未来ある

今日の青年は，先人以上に偽善をいみ嫌う。彼らは自分のありのままの過去，現在，さらに未来を語ってくれる教師，指導者，大人たちを欲している。人がもっとも良く見えるのは，日曜日の朝だと言われているが，土曜日の晩と日曜日の朝とではまるで人が変わったようになることを望んではいない。人がいつも誠実でうらおもてのないことを望んでいる。

このように，純粋なものを特に強調するのは，恐らく現代の都市社会を反映しているに違いない。小さな農村社会で一生を送る時，人は誠実さをいつも保っていられる。人々は共に働き，愛する者を失った時には共に泣き，共に失望し，共にかんばつと自然に立ち向かい，そして互いに深く知り合うようになる。こうして，同じ地域に住む人々はめったに人を欺くことがない。

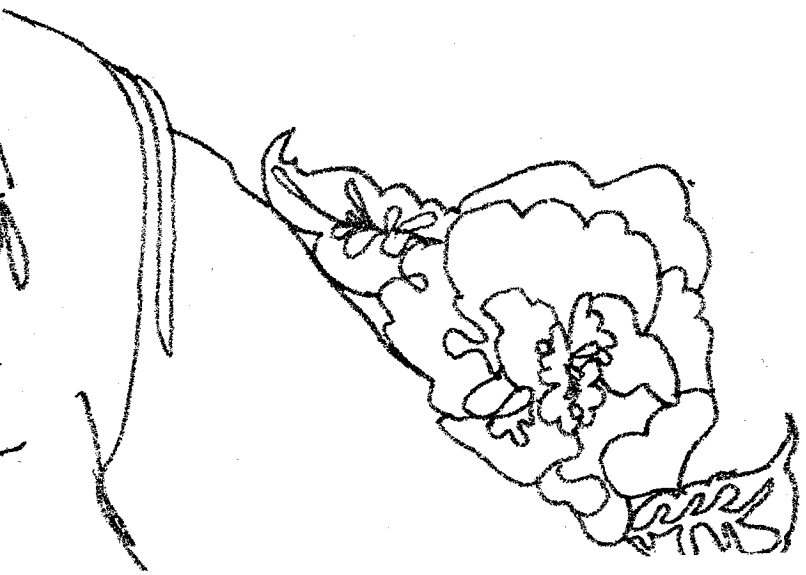
都市が大きくなり，人口が増加すると，同じワード部の会員と共に働く機会が少なくなる。互いに教会でしか会わなくなると，しだいにうわべだけのつき合いになり，お世辞を言い合っては「偽り」を言うようになる。これを敏感に感じとる青年は，真実なものに心からあこがれる。

同輩の中にあって，言論の自由を大いに尊重して種々雑多な意見にも耳を貸す今日の青年は，すべての人に固有の権利を守るために進んで奮闘する。これは恐らく，決定の段階では関与させずに政策や決定を押しつける権威，厳格な規則，制度に対して青年が憤る一つの理由であろう。

今日の若人はかつてないほどに，社会正義に関心を抱いている。彼らは，戦争，暴動，災害で撃たれ，焼かれ，あるいはかたわになった人々を思いやり，苦しみを共にしている。スラム街に住み，精神も能力も貧困の中に沈んでいる人と共に泣くのである。テレビが生活のあらゆる面を報道するおかげで，前の世代の人々がただ想像していただけの世の不幸，つまり戦争，災害，飢きんの恐しさを，現代の青年は実際に見ることができるのである。

「これほどすばらしい若い世代は他にないであろう」教会の指導者たちは，しばしば声を大にしてこう言う。すばらしい青年と立派な指導者は，回復された福音の中においてこそ共に働くことができるのである。末日聖徒イエス・キリスト教会はいつもシオンを夢みてきた。人が真に誠実で，物の道理をわきまえているシオン。全世界にあまねく正義，平和，一致が行きわたり，富める人も貧しい人もいないシオン。人生の意味と達成，喜びにあふれたシオン。しかし私たちは決して現実の世界から遠ざかってきたのではない。私たちは待ち望んでいるシオンを作るため，積極的に世の中を改革しようとしてきたのである。

現代の青年は，シオンという理想に焦点を絞り，社会問題



世代

ケネス　W. ゴッドフリー

に取り組む指導者を求めている。一方，意見を異にする人を悪く言わない指導者をも求めているのである。青年は少数の意見を聞きその中に自分も加わりたいと思っている。同時に，宗教が単なる善行を勧める社会的真理になっていくのに反発をおぼえている。

自分のすべてを捧げ，真に目ざめなければならないと痛感している青年は，時事問題に取り組むと同様に，イエス・キリストと深い交わりを持つことを強調している。現代の青年は，永遠に変わらぬ徳を確かめ，強調しなければならないことを知っている。奉仕，正直，正義，信仰，悔い改めといった原則は青年の生活において真の意味がある。また彼らは，自分と神との関係をよくするだけでなく，人を助ける時にも福音を生かしたいと思っているのである。

ある監督は言っている。「青年はまず，権威を身にまとう大人を疑ってみる。そのほとんどは監督との面接のようなものに強く反発する。私が忍耐強く深い関心を持って彼らの話を聞き，めったに批判をせず，たとえしたとしても注意深くすることをわからせるには，かなりの時間をかけてよく話し合わなければならない。」

あるすばらしい指導者は，深い洞察力をもって次のように記している。「面接は少なくとも３人で行なわれる。そしてその一人は神である。面接を受ける人は神を信じているので私を信頼してくれる。もし彼が神を知らなければ，私を信頼することはないであろう。」この指導者は，青年にとって神と個人的に交わることが非常に大切なことを知っていたと言えよう。

青年は，指導者とは自分の誤りを指摘してくれる人であることを知っており，そういう指導者を望んでいる。しかしこのような反対は，若人の意見を最後まで聞き，お互いの感情を尊重する時にだけできることである。

青年は，指導者たちが彼らに愛と理解を持っていることを知る必要がある。彼らの行ないが粗野だとしても，理解があれば彼らは神に対して恥しくない行動をとるようになる。人々と共に歩まれたイエス・キリストが，悔い改めの余地もない悪人をも差別なさらなかったことを心にとめよう。デビド O. マッケイ大管長は，青年と指導者の両方が持つべき特質を最もよく述べていると思う。「神は人の心を通してのみ，御心を教えたもう」

＊テンプステーキ部）アリゾナ州）高等評議員であるケネス W. ゴッドフリーは，現在教会の宗教および神学講座のアリゾナ，ニューメキシコ州地区主任である。

原　則

十二使徒評議員会補助，エラ　オブ　ユース編集長
マリオン　D. ハンクス長老

本当の意味の「今世紀の闘い」とは，若人が人生の真の意味を知るように，立派な生活を送るようにと導く闘いです。末日聖徒イエス・キリスト教会はその最前線に立っています。教会には，若い人たちが人生で最も大切な選択をする際に助けとなる原則，人材，活動が豊富にそろっています。最近ある新聞の社説にこう書かれていました。

モルモン教徒は，宗教団体なら必ず関心をよせる「どうしたら若者をひきつけておけるか」という質問に，すでに答えているように見うけられる。……彼らは本気で信仰している。おそらくそれが，青少年を教会にひきつけていることの第一の秘訣であろう。

教会は若人に何を求めるのか。教会は若人にどう役立っているのか。

教会は，父なる神や救い主キリスト，さらに御二方が私たちのために示して下さった自らを捨てた愛ににつかわしい，人生の善きもの，豊かなもの，健全なものを若者が見出せるようにと望んでいます。

若者にふさわしい立派な生活とは

教会は若人に，良い生活とは，完全をめざし最高の人格を備えた人間をめざして努力，前進する生活であると教え，それが可能だと教えます。それは，霊性，高い標準，修養された精神，健全な身体，困難に動じない度量，他人やこれから生まれくる世代の人々に対する責任感などが調和した生活です。

そのような生活をし，指導力を身につけ，美しく気高いものに対する感受性を深め，賢明な交際と幸福な結婚，喜びに満たされた家庭生活を実現する知恵を学び，良い心をもって良い判断ができるようになるための力は，教会にあるのです。

危険は何か

この複雑な世界にあって，若者自身にも，生活環境にも危険はひそんでいます。キーツ[1]は「エンデミオン」の序文でこう言っています。

「少年の想像は健全である。大人の円熟した想像もまた健

全である。しかし大人と子供の間に，精神の動揺をきたし，性質の定まらない……それゆえ何とも吐気をもよおすほどの……人生の間隙がある」。

この時代は，生み出すものを持たない誤った未熟な生き方をする人々が，まるで立派なことのように無秩序を広める一方，聡明な人々が，道徳と行ないを高い水準にひきあげようとチャレンジを呼びかけている時代です。若人はこの二つを見きわめ，一方を取り一方を捨て去ろうとする時に，助けが必要です。彼らは賢明に選択し，行動して，立派な人格を築きあげねばなりません。

教会はいかにしてこの重大なつとめをなしているか。その答えは，「原則」に始まる。

末日聖徒イエス・キリスト教会は若人に正しい原則を教え，その原則を日々にどう生かすかを学ぶ機会を提供し，円熟した大人を助言者として備えています。若い男女が信仰や同胞意識や奉仕の心を培うように，また愛し愛されることにより自分を大切にすることを学ぶ環境を整えるべくつとめています。現代の三大害悪とも言うべき空虚，孤独，不安は，まことの原則が私たちの血となり肉となる時に，消滅し去るのです。

では，その原則をあげましょう。

神は生きておられること

すべての人は永遠の存在者であり，文字通り「霊の父である」[2]神の子供です。人間は父なる神の霊の子供として，前世に住み，愛され，自分で選択の自由を持ちながら生活していました。そして，「天上の戦い」[3]の時に救い主の側に立って雄々しかったために，地上に来ることを許されたのです。この人生には使命と意味があります。あなたが選びとりさえするならば，神の息子，娘たちと共に永遠に進歩しつつ，神の王国で創造の業につかえることができるのです。人はその選択をこの世で，信仰，従順，忍耐，および愛を学び，愛を示すことなどによって行なうのです。

神は生きておられます。愛に満ちた聖なる永遠の御父です。恵み深く，私たちのことを心にかけられ，知恵を与え，敵を許し，私たちの選択権を守られ，私たちが自分の選びに応えることを願っておられます。正義を豊かな慈悲で包み，救い主を送られて，私たちの悔い改めと赦しとを可能にして下さったのです。

生命は永遠であり，意味深いものであること

生命は永遠であり，このいずれ死ななくてはならぬ人生にも，目的と意味があります。人の個性は永続します。私たちの霊と心にたくわえたものは，死後も永遠に私たちのものです。それゆえ，人生は物質を求めて奔走する競争の場ではなく，学校なのです。私たちは求め，たずね，叩き，信仰を学び，従順を学び，「みたま」によって歩むことを学ぶためにこの世にいるのです。礼拝は神との交わりであり，祈りは神と共にいるための方法です。

キリストと人類

神の「わざと栄光」は，「人に不死不滅と永遠の生命とをもたらす」[4]ことです。救いは，二重の鍵がかかった扉を通って到達する恵みです。キリストはすでに一つの鍵をあけて，扉の所に立ちノックしておられます。もう一つの鍵は私たちの心にあります。私たちはキリストに対して心を開き，その鍵をあけ，備えてある道を進まなければなりません。私たちの栄光はキリストのいましめに従うことにあるのです。

什分の一と断食

私たちの持っているものは，すべて神が備えて下さったものです。私たちはそのお返しとして，什分の一と捧げものを神の倉におさめるのです。主は私たちに，自分自身を捧げるようにとも教えておられます。理解できるように，なし遂げられるように，また自制ができ，耐え忍べるようにと，私たちは信仰を求めて断食と祈りをします。什分の一は霊的な原則です。モルモンの若人は小さい時から全収入の什分の一をおさめています。

奉　仕

神は私たちを愛したまい，私たちが神や隣り人を愛するようにと命じておられます。しかし，口先だけの愛を求めては

おられません。抽象的な愛は何もならないのです。神はその愛を示す方法を備えておられるに違いありません。神は私たちに，聖く，己れを捨てて気高く生きるようにと命じられたのです。救い主が私たちの標準です。良きサマリヤ人は私たちの模範です。教会の若人は，奉仕の機会を数多く与えられているのです。

許　し

さまよう者が故郷を見出し，罪人が悔い改める時，天には喜びがあり，主に従う地に住む者のあいだにも責めや非難やさばきではなく，喜びが満ちます。戻ってきたほうとう息子を，排斥や非難や軽べつではなく，喜びが迎えるのです。

デートと結婚

神や人や愛と同様，結婚も家族も永遠です。デートも交際も，そのことを心にとめて行なわれなくてはなりません。永遠の結婚は，愛しあい，まわりの人々に多くの良いものを与えてきた二人に，おのずと約束される祝福なのです。それは神の定めたもうた結婚の律法です。モルモンの若人は神殿において，「今も永世にも」結ばれます。

権　能

神を代表する権能は，神が定められた方法によって選び聖任したもう人々に，神御自身から与えられます。権能は自動的に得られるものではありません。主は「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んで按手聖任したのである」[5]と言われました。ごく普通の人が神に召され，神より権能を授けられて，その代表者として働くのです。

12歳以上の熱心なモルモンの男性は，神権の職を受けて，年齢や経験にふさわしい奉仕と指導を行ないます。

神はこれらの原則をふくむ多くのことを，各神権時代に聖なる予言者たちを通して人に啓示して来られました。

モルモンの若人にとって，宗教は彼らの「霊的な響影力をひきだす」力を持っています。彼らは神のまことの子供たちです。

伝道活動

モルモンの若人は人々の兄弟でもあります。彼らには，真実な良いものを人々にわかち与えるという責任があります。若人はその責任を果たすべく，二年間の全時間を費やし，世界各地で伝道を行ないます。その費用は，自分でためたり家族や友人たちの援助によるものです。

健全な体

良い生活には健康が欠かせません。モルモンの若人は幼い時から，体を大切にし，強健にするよう教えられています。体は永遠の存在にとって大切であり，決して悪いものではないと信じているからです。「人間は霊と体とより成る」[6]のです。彼らは知恵の言葉として知られる健康の法則に従います。1833年に主から予言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示の中で，主はアルコール，タバコ，その他の害になるものをとらないようにと勧め，そのことにより肉体的，精神的，霊的な祝福を受けると約束されました。

正直勤勉を教会は奨励しています。人々は時々礼拝堂や庭，さらに福祉農場や牧場，カン詰工場へ行って教会のために働きます。カン詰工場の製品は困窮家庭に送られています。

教会は多方面にわたってスポーツ活動を進めています。キャンプやダンスその他，健全なレクリエーションもさかんです。それを「精神を高めるレクリエーション」と呼んだ人があります。スポーツや文化活動は教会の標準にもとづき，立派な指導者のもとで行なわれるのです。

若いモルモンは，必要な時には国家のために力を尽すよう教えられています。2千年前の勇敢なアンモンの息子たちは，現代のモルモンの若人の模範です。「彼らはみな……筋骨たくましく活発な勇士であったばかりでなく，いついかなる時でも委ねられたことを忠実に行なった」（アルマ 53：20）

道　徳

末日聖徒イエス・キリスト教会の若い人たちは，人生や人々，体，結婚，家族などについて責任ある敬虔な態度を持つと共に，道徳に重きを置きます。彼らは清く健全な生活を送

るようにと教えられています。教会の各組織においてあらゆる年代の人々に純潔，貞節，忠節が教えられているのです。幼い子供たちもこの信仰箇条を覚えています。「われらは，正直，真実，貞潔，慈善，高徳なるべきこと，およびすべての人に善を行うべきを信ず。……もし何にても，徳高きこと，好ましきこと，よき聞えあること，あるいは褒むべきことあらば，われらはこれらをたずねもとむるものなり」。

勉　学

モルモンの若人は，聖典から「神の栄光は英智」であると教えられています。また「研究と信仰によりて学問を求むべし」，「およそ，われらのこの世に於て達する英智の一切は，何にてもよみがえりの時われらと共によみがえるべし。さればもしある人ありて，精励従順によりこの世に於て他の人よりも一層勝れたる知識と英智とを得ば，未来の世に於てそれだけ利を得べし」（教義と聖約130：18—19）と言われています。

若い人々が自分を訓練し，教育し，高め，みがくために，常に注意が払われています。教会は世界各国に単科大学，職業学校，総合大学を建て，学生が授業の前や自分の時間を使って出席できるセミナリー（宗教講座），大学などに隣接したインスティチュート（神学講座）を設け，学生が専門の学問と並行して霊的，道徳的な勉強を受け，調和した人格を形成するための助けとなっています。

健全な精神を持つ人は，思想や生活においても高い標準を保ちます。

喜　び

モルモンは，「人類が現世にあるのは幸福を得んためである」と信じ，まことの幸福は良心と自尊の心にかなう生き方をしてこそもたらされると信じます。その幸福は，破壊的な行動や奇妙な服装，髪型，ふるまいから生まれるのではありません。幸福な生活を送るには，家族や友人，隣人との関係が健全な良いものでなければなりませんし，神に信頼を寄せ，自分に対する自信，信頼が年月と共に増して行くのでなくてはなりません。教会の若人は，人種，身分，信仰がどうであれ，すべての人に友情と心からの関心を持つべきことを教えられています。社会に対する奉仕が勧められ，市民としての政治参加も望まれています。

教会員にとって，家族のつながりは特に大切です。宗教は家族を中心としています。週に一回家庭の夕べが家族単位に開かれ，家族でいっしょに祈り，教会に行き，奉仕し，休日を楽しみ，遊びます。共に努力しながら，理想を実現して行くのです。両親は子供の教育や職業に関心を持ちますが，物質を与えることよりも，幸福な家族関係を整えて彼らに良い経験を得させることに，より多くの関心を払います。

指導力

私たちは行なうことによって学びます。モルモンの若人は，いろいろなことを行なう機会に恵まれています。教会には専門の牧師がいないので，その仕事は普通の教会員が行ないます。教会の若人は人々の前に立って話し，指導者たちの助言を受け，活動を計画，運営し，教え，歌い，儀式をとり行ないます。音楽，演劇，弁論などの活動に参加します。集会を司会し，組織の役員にもなります。このような経験と訓練を経て，教会員は有能な指導者になります。こうして，教会はごく普通の人々によりあらゆる分野でレベルの高い働きをなしているのです。

モルモンの若人は正しい原則を教えられているので，学業伝道，職業などで家を離れて生活しても，自分を治め，主と教会に近く生活することができます。

教会の若人のための活動はこのような原則にのっとって計画されています。

若人を教会に向けさせるために行なわれている活動のすべては，イエス・キリストの福音の原則により，力と意味を与えられています。

1．キーツ，ジョン——英国の詩人
2．ヘブル 12：9参照
3．レビ 12：7参照
4．モーセ 1：39
5．ヨハネ 15：16
6．教義と聖約 88：15

＊まず神の国と神の義とを求めなさい。
そうすれば，これらのものは，すべて添えて与えられるであろう。
—マタイ６：33—

第一にすべきこと

リード　H. ブラッドフォード

現代の私たちの社会は複雑で，多くを求めています。それは非常に分業化された社会で，私たちはそこでさまざまなグループに加わったり，活動に参加することができます。しかしそういった複雑さが私たちの生活を豊かにしてくれるとも言えるでしょう。いなかよりも都会を好んで生活する人々がいるのもそのためです。このように都会を好んで生活する人々は，多くの組織の中で広範囲な経験を得，成長できると考えているのです。

しかしこのような社会は人々に非常に大きなチャレンジをも与えています。社会の分業化がすすむということは，一人の人がすべてのグループ，活動に参加することができなくなることを意味するのです。そこでこのような問題が起きてきます。どの目標に重点をおくべきなのか，最も大切な組織は何だろうか。私たちの時間，労力，能力には限界があることを知るためにも，このように自問することは適切だといえるでしょう。

ここにもう一つ，チャレンジがあげられます。私たちがたとえ社会のあらゆるグループに加わることができるとしても，必ずそうすべきだということではないのです。組織や活動によっては，私たちが目標に向かって努力するうえでなんの役にも立たないものがあります。そのため，何が最も大切かというように優先順位を決める必要がでてくるのです。

導き手となるもの

導き手となるものがあると，私たちは優先すべきものを決めやすくなります。次に述べることを考えてみて下さい。

イエスはこの世での使命を終え，はりつけにされました。天父に祈りを捧げ，ご自分のなさったすべてのことを要約してイエスは言われたのです。

「真理によって彼らを聖別して下さい。……また彼らが真理によって聖別されるように，彼らのためわたし自身を聖別いたします。……わたしは，あなたからいただいた栄光を彼らにも与えました。それは，わたしたちが一つであるように，彼らも一つになるためであります。わたしが彼らにおり，あなたがわたしにいますのは，彼らが完全に一つとなるためであり，また，あなたがわたしをつかわし，わたしを愛されたように，彼らをお愛しになったことを，世が知るためであります。父よ，あなたがわたしに賜った人々が，わたしのいる所に一緒にいるようにして下さい。……」（ヨハネ17：17，19，22～24）

私には，救い主がこのように言われていたと思えるのです。「もしも彼らが私たちのようになることができるなら，彼らも私たちと同じ喜びを味うことができ，私たちと同じ義なる力を持つに違いありません。そして私たちと同じようなやさしい心づかいでお互いに接し，賜，才能を分ち合いこの世での経験を豊かなものにするでしょう。こうして，彼らは一体となることにより一人の時以上に多くのことを達成できるようになるのです。そしてついには私たちの前で生活するにふさわしい人々となるのです。」

はたしてこれ以上の，私たちを奮い立たせてくれるような目標があるでしょうか。天父と御子と共に住める永遠の生命を得るために，私たちは二つの大切なことをしなくてはなりません。その一つは自分自身と主に対して，福音の律法と原則に従って目標をめざすという約束をすることです。もう一つは，このような約束をしたあとに，たえず神の御言葉を学ぶことです。最近，著者が数百人の教会員を対象に，どれだけの人が標準聖典と呼ばれる新旧約聖書，教義と聖約，モルモン経，高価なる真珠を通読したかを調査しました。その結果，旧約聖書を通読したという人はわずか13％で，最も多くの人々（49％）が読んでいる聖典はモルモン経であることなどがわかりました。主のみ教えを「心から」学ぶという約束は，主の次の言葉が成就することです。

「神は忠信なる者たちに，規則に規則を加え，誡命にいましめを加えん。……」（教義と聖約98：12）主から光と知識を受けると，私たちの心は安らぎ，そこに喜びが生まれます。

応　用

優先順位についてよく理解できたなら，次にそれを日常生活で実行に移すことです。たとえば学生は，学校の試験で不

正行為をしても見つからなければそのまま良い点をとることができるでしょう。けれどもこの学生にとっては，不正行為をして高い点をとることよりも，正直で主に信頼されていることの方がはるかに大切なのです。

今日簡単に手に入るいろいろな幻覚剤をいたずらに使う若者もいるでしょう。しかしこの若者は，自分の身体を聖霊の宿る宮と考えそのように扱うときに，薬による幻覚状態からは決して得られない永続性のある満足感を得ることができるのです。

正しい方法で得，正しい方法で使うとき，お金は多くの正当な目的を達成するための大切な手段となります。しかし，すべてお金が目当となるとそれはパウロの言うように，あらゆる大きな罪悪の「根」となるのです。（Ⅰテモテ6：10参照）「金銭を愛すること」によって，人は他人を虐待したり，高い価値ある目標に到達できなかったりするのです。次にあげる物語からもそのことがわかるでしょう。

パホムと悪魔[1]

トルストイの「人はどれだけ土地が必要か」という物語の中で，彼は土地さえ多く持っていれば「悪魔など少しもこわくない」と言う一人の男のことについて書いています。その男の言葉に悪魔はこう思ったのでした。「よし，わかった。それじゃここらで一戦交えてみよう。まずおまえにたくさん土地をやろう。だがその土地を使って必ずおまえを従わせてみせる。」

ある日のこと，名前をパホムというその男に，念願の非常に多くの土地が手に入るという夢のような話がもちあがりました。地主は彼に，土地を一日千ルーブルで売ろうと言いましたがパホムにはなんのことかわかりませんでした。

「一日ですって？いったいどんな計算のしかたをしているんですか。その土地は何ヘクタールあるんですか。」

「計算のしかたなど，わたしたちにはわかりません。」とその地主は言いました。「わたしたちは日決めで売っているのです。一日のうち，あなたが歩いたところは全部あなたのものになります。そしてその値段が一日につき千ルーブルだというんですよ。」

パホムは驚いて言いました。

「しかし，一日だったらずい分遠くまで行けるでしょうに……。」

地主は笑いながら言いました。

「そうです。それが全部あなたのものになるのです。」「しかしひとつ条件があります。もしその日のうちにまた出発した地点にもどってこなければ，あなたは千ルーブルをだめにすることになるのです。」

パホムは喜んで，翌朝早く出発することに決めました。

「きっとたくさん土地が手に入るぞ。」こうパホムは思いました。「一日がかりなら56キロは楽なもんだ。」彼は明け方ちょっとうとうとしただけで一晩中目を覚していました。

その日，彼は約束の場所で地主と会い千ルーブルを払うと出発しました。はじめから非常な勢いで歩き出しましたが，数時間もたつと疲れてきました。その日はとても暑い日でした。けれども彼はおちおち休息などとってはいられないと思いました。自分に「一時間我まんすれば，一生食べていける」と言いきかせていたのです。一直線に同じ方向へ長い間歩いたすえ，彼は時間まで戻れるように向きを変えて左にまがろうとしました。しかしその時，彼は目の前に非常によく肥えた土地を見たのです。「このまま残していくのはおしい」そう思うと彼はこの肥沃な土地が全部自分のものになるまで同じ方向にどんどん歩き続けました。と，その時太陽が非常に早く沈んでいくのに気づきました。「ああ……どうしよう。少しよくばりすぎてしまったようだ……」出発地点に向かうと彼はまっしぐらに走り出しました。息づかいは荒く，胸の鼓動は非常に早くなり足はもつれていました。ひどい疲労のため彼は一瞬死ぬのではないかという恐怖にかられました。しかしありったけの力をふりしぼり，彼は日没前にやっと地主や他の人々が待っている出発地点に帰ることができたのです。その場に着いた時，足の力がぬけ彼はそのまま前に倒れてしまいました。

「おお，なかなか立派なかただ！」地主は叫びました。

「このかたはたくさんの土地を手に入れましたぞ！」

パホムの召使いが走ってきて，彼をおこそうとした時，召使いはパホムの口から血が流れているのに気づきました。パホムは死んだのでした。

召使いは，くわをもってきてパホムの身体を横たえるだけの穴を堀り，そこに彼を葬りました。パホムは頭の先からつま先までの土地しか必要としなかったのです。

・　・　・　・　・

主は言われた。

……野の獣空の鳥および地より生え出ずるところのものは，人が食い且つ着んがために，またこれを豊かに持つように神の定むるところなればなり。（教義と聖約49：19）

たとえば，家も必要なものを十分に供給しているなら一つの財産といえるでしょう。しかし次の物語の中で母親が知ったように，家の物質的な財産よりも子供の幸福を願い，彼らの必要としているものを知ることの方がはるかに大切なのです

歌声のひびく家[2]

私はフレッドのくびにナプキンをかけてやってから，テーブルにオレンジジュース，オートミール，それにミルクを入れた大きなコップをならべました。私は，子供たちをその時代に合った方法で育てる母親は賢明であると考えていました。

フレッドは行儀よく食事を終えると，椅子から立ちあがって言いました。

「おかあさん，もうジミーの家へ遊びに行ってもいい？」

「でもフレッド」私はいさめる調子で言いました。「あなたはきのうも，おとといもジミーの家で遊んだでしょう。きょうはジミーを家へよんだらどうなの？」

「ジミーは来たがらないんだよ」六つにもなるというのに，フレッドは今にも泣きそうな様子で言いました。「ねえ，おねがいだから，おかあさん」

「どうして自分の家より，ジミーの家の方がいいの，フレッド」私は聞きただしました。しかしその時私は急に，フレッドだけでなく，他の友だちもみないつもジミーの家へ行きたがっていることに気づきました。

「だってさ，えーと，ジミーの家は歌声のひびく家なんだもの」とフレッドはためらいがちに言いました。

「歌声のひびく家ですって？」私は問いただしました。「いったいそれはどういう意味なの？」

「それは，えーと……」フレッドは説明するのがむずかしそうな様子でした。「ジミーのおかあさんは縫い物をしながらハミングしたり，お手伝いさんのアニーはクッキーを作りながら歌うし，ジミーのおとうさんはいつも口笛をふきながら会社から帰ってくるんだ」少し間をおいてからフレッドは続けて言いました。「それにジミーの家のカーテンはきちんと巻いてあるし，窓のところにはきれいな花が飾ってあるんだ。みんなジミーの家が好きなんだよ，おかあさん」

「さあ，行ってもいいわ」私はすぐにそう言いました。一人で考えてみたかったのです。

私は自分の家をじっくりながめてみました。みんながなんてきれいな家だろうと言ってほめてくれました。そこには東洋風のじゅうたんがしきつめてあるのです。そのじゅうたん

は分割払いで手に入れたものです。ですからうちでは，ジミーの家のようにお手伝いさんに来てもらう余裕などないのです。部屋中いっぱいの家具も，車も全部分割払いなのです。ですからフレッドのお父さんは仕事から帰って来る時も口笛などふいていられないのでしょう。

無駄を省く

朝の十時，しかも土曜日だというのに，私は帽子をかぶるとジミーの家へ出かけて行きました。十時なら，おじゃましてもバートン夫人はそれほど迷惑ではないだろうと思ったのです。彼女は一度も忙がしそうな様子を見せたことがありませんでした。バートン夫人は頭にタオルを巻いたまま出てきました。

「まあ，いらっしゃい。ちょうど居間のかたづけが終ったところなんですの。いいえ，ちっとも迷惑なんかじゃありませんわ。今この頭ちょっと直してきますから，お待ち下さい」

私は待っている間に，あたりを見渡しました。じゅうたんはほとんどすり切れていました。スイスモスリンのカーテンは上にまくりあげてしばってあります。古い傷のついた家具にはクレトンさらさでおおいがしてあり，新品のように見えました。きれいなテーブルかけをかけたテーブルの上には，最近の雑誌が何冊かのっていました。窓辺にはむらさきつゆくさが生けてある，つたのからまった花かごがゆれていて，ひなたにさげてある鳥かごからは小鳥のさえずりが聞えてきました。実に家庭的なのです。

台所の戸があいていて，清潔な床の上で赤ちゃんのジェリーがアニーのアップルパイを作っている様子をじっとながめているのが見えました。アニーは歌っていました。……

バートン夫人は，にこにこしながらやってきてたずねました。「さて，ご用はなんでしょうか。あなたのような忙しい方がいらっしゃるなんて，きっと何かご用がおありなんでしょう。」

「ええ」私はきっぱりと言いました。「歌声のひびく家ってどういうのか見せていただきたいと思いまして……。」

＊1．レオ・トルストイ（1828～1910）
ロシアの作家，倫理学者，社会改革者
＊2．「歌声のひびく家」メイ・モーガン・ポッター

標準がなければ

リチャード L. エバンズ

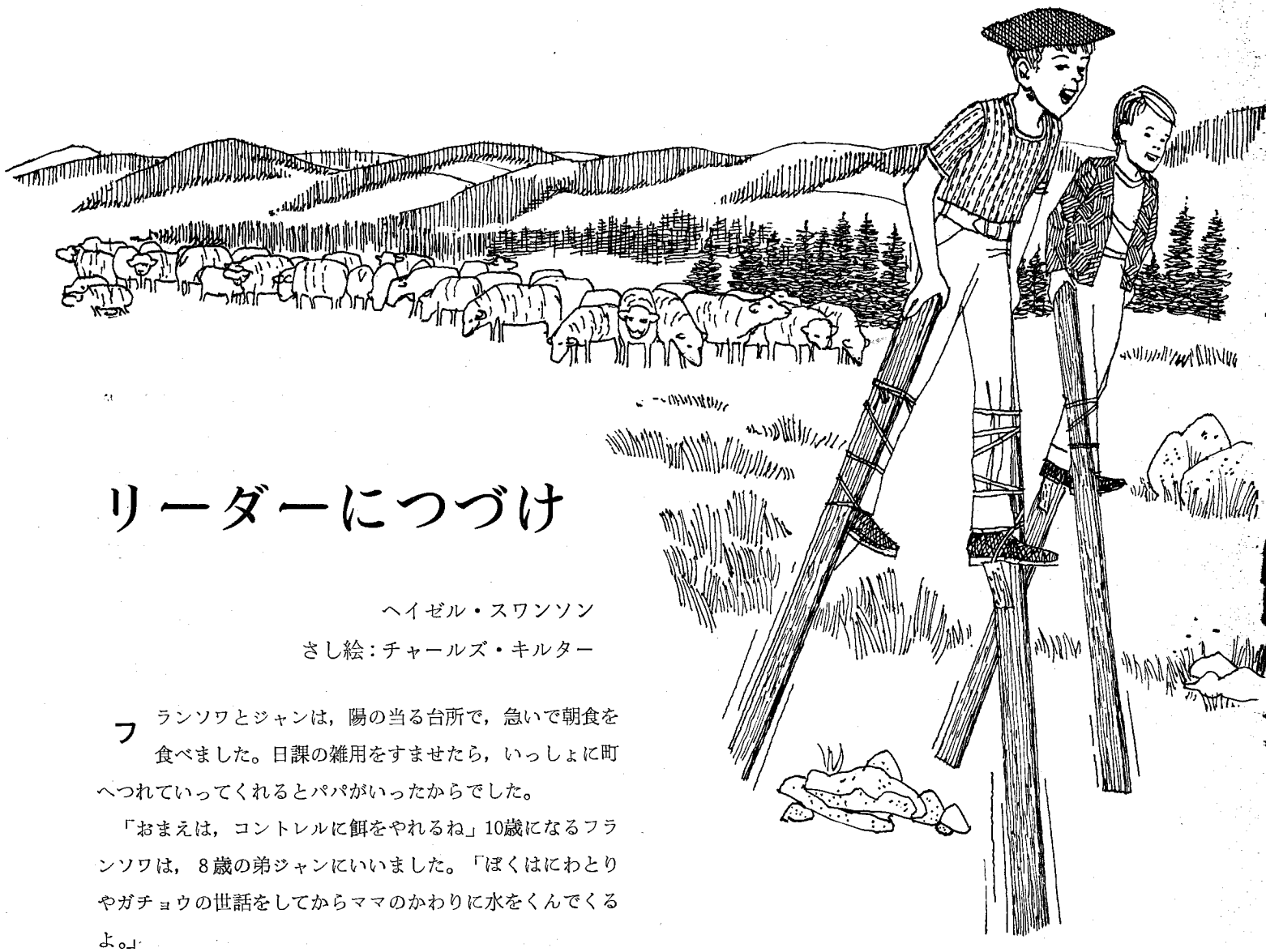
我々が目を向けるべき簡単で身近な主題は，徳行，尊敬，貞潔など清い生活，立派な人生に関するものである。これらの主題に標準，道徳，律法，戒めをもつけ加える必要がある。誰でも標準，道徳，律法，戒めを軽視しがちであるが，これらは幸福な人生にとって欠くことができない。標準や道徳や律法なくして，幸福になった人はいないし，人々の個人的な不幸と堕落，道徳の低下，頽廃した文明などは，誰かが望む以上に多くの証拠を与えてくれる。この点について言いかえると，標準がなければ，生き方がわからず，判断，選択，酌量ができない。標準，律法原則がなければ，受け入れるべきものと受け入れられぬものとがわからない。そこで我々は何者であり，どこにいて，何をなすべきか，また人生に何を期待されているかを知らずに，己れの不確かな考えにいつも迷ってしまう。推しはかるべき標準を与えずに，子孫が幸福になり，しっかりした着実な，目的のある生活をするようにとどうして望み得ようか。人生の標準や原則，限界や指針を一たび破るか取り除くと，すなわち一たび，星，コンパス，定点を失うと，我々はどこにいるのか，どこへ行こうとしているかを知るすべもなく，道に迷ってしまう。もし我々が誤った導き，指導不足により，若い世代を道徳的に迷わせてしまうなら，我々は彼らのための善と幸福，平安と目的の基を奪ってしまうことになろう。そして，それは誰かが背負う重荷となる。

もし現世においてもまた来世においても，幸福でありたいなら，我々は自ら高潔，徳行，真実，正直，貞潔に関する律法，戒め，教え，標準に従って生活し，これら無限にして永遠の真理を若い人々に教え示さなければならない。星，コンパス，標準，定点，人生の指針がなければ，我々はいずこにいることであろうか。我々は最後に次のような簡単で確固たる結論を下さざるをえない。

「……罪悪は決して幸福を生じたことはない」

1．アルマ 41：10

「スポークン・ワード」1969年8月17日



リーダーにつづけ

ヘイゼル・スワンソン
さし絵：チャールズ・キルター

フランソワとジャンは，陽の当る台所で，急いで朝食を食べました。日課の雑用をすませたら，いっしょに町へつれていってくれるとパパがいったからでした。

「おまえは，コントレルに餌をやれるね」10歳になるフランソワは，8歳の弟ジャンにいいました。「ぼくはにわとりやガチョウの世話をしてからママのかわりに水をくんでくるよ。」

その時パパがジャックおじさんといっしょに，台所のドアをあけてはいってきました。「ジャックおじさんが，私といっしょに町へ行くことになった。おじさんはおまえたちに羊の番をしてほしいそうだ。このあいだの嵐からずっと，牧場の低いところがまた沼地みたいになってしまっている。ジャックおじさんは去年のように沼地で羊をなくしたくないと思っているからたのむよ。」

フランソワはとてもがっかりしましたが，ジャンの方はたのしそうでした。「そんな顔をしてはいけないよ，フランソワ。」とジャンは明るく言いました。「お祭りの日にする竹馬レースの練習ができそうだよ。」

フランソワはがっかりした気持を見せまいとしたのでしたが，それでもジャンのようにのん気そうにしてみせることはできませんでした。ジャンは，ママ以上でした。ママは，がっかりしても，きっとそのうちに何か良いことがありますよと言っていました。でもフランソワには，どうしてそんなことがあるのかよくわかりませんでした。

仕事が終ってから二人は竹馬を持ち出しました。それは板でできていて，1メートル65センチもあって，床からだいたい1メートルのところに足場がついています。皮のひもが足場のところについていて，それで足のふくらはぎのまわりをしばってとめるようになっているのです。

フランスのラード地方の男の人や羊飼いはみんな，一度はこのような竹馬をはいたことがあります。むかしは，ラード地方全部がじめじめして湿った沼のような土地だったのですが，農夫たちはあれる海や砂丘をうめたてようと数百本の松の木をうえ，沼地をかわいた良い土地にかえようとしたのでした。今では，ラード地方はよくこえた土地ですが，でもまだ，大雨がふったりするとひくいところにある牧草地が水びたしになるおそれがあり，泥沼の中に動物がまよいこんでしまう危険があるのです。

「ぼく，お兄ちゃんと牧場まで競争しようっと」，ジャンは元気よくそういうと，まるでこうのとりかなにかのようなかっこうで，竹馬をのり出しました。

しばらくの間，二人は羊の群を見はっていました。それからジャンが大声でいいました。「レースの練習をしようよ，お兄ちゃん，牧場の北の高台にある松林まで競争だ。」

フランソワは羊たちを見わたしました。羊の群はとても静かでおとなしそうでした。まるで2，3日前の嵐のあとの静けさをよろこんでいるかのようでした。

「いいよ，やろう，ジャン20歩先に出てもいいよ」

「よーし」とジャンはうれしそうに叫んで，大またで元気よく進み出ました。

松林まではそうとうの距離があるのですが，フランソワは弟に追いつくことがむずかしいとわかりました。この牧場は水はけがよい方なのに，雨がそうとうひどかったので土地はまだまったくのぬかるみでした。

ジャンは息切れがしてきました。その時急にとびあがって叫んだのです。「フランソワ羊をみて！」

フランソワは，何を見ているのか信じられないほどでした。群の中のリーダーの羊が，沼地のような低い牧場に向かっていくではありませんか。そして残りの羊たちはリーダーにつづいてくだっていくのです。いそがなければ，羊たちはリーダーに続いて泥沼の中に入ってしまうでしょう！

二人が走ってもどった時には，5，6匹羊がリーダーに続いて泥沼の中に入ってしまっていました。羊たちがもがいたり鳴き声をあげたりすればするほど，泥の中に深くはまっていくのでした。

「はやく！ジャン，むこうの群をさえぎるんだ」。弟が言ったとおりにするかどうか見とどけないうちに，フランソワは大またで反対がわへまわり，手をたたいて，大声でかけ声をかけました。するとだいたい50匹の羊がおどろいて，リーダーの羊から離れ，安全な土地の方へ散ってゆきました。

それからは，弟がうまく追うようにみまもるだけでした。ジャンも，約30匹の羊をぶじにもどらせることができました。

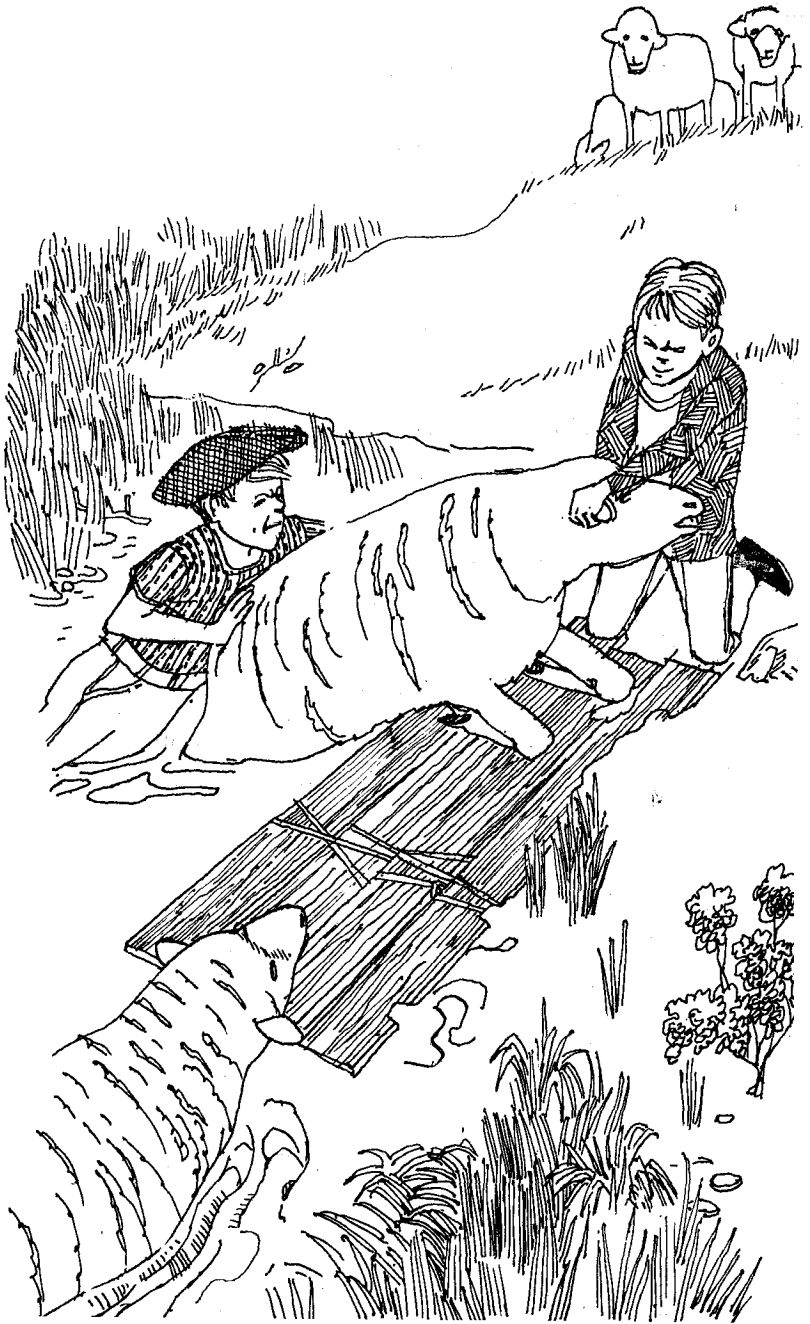
フランソワは，すばやく羊を数えました。リーダーの羊をまぜて12匹が，泥沼にはまってもがいているのです。フランソワは，心を落ちつけようとしました。羊飼は信頼されています。ですから羊を1匹も失ってはならないのです。でも一体彼になにができるというのでしょう。その時，フランソワは，まだ竹馬をはいたままでいることに気がつきました。

そのおかげで，彼は沼の中に入って行って羊を1匹ずつ運び出すことができたのでした。

「ジャン。残りの羊たちを松林までつれていくんだ。」

「でも他の羊たちはどうなるの？」ジャンの声はこわさのあまりふるえていました。危険にさらされて羊たちがおびえているおそろしい光景をみてジャンの優しい心はいたんだのでした。

「ぼくのいうとおりにするんだよ」とフランソワは言い，すばやくふりかえると沼の中に少しずつ入っていきました。歩くたびに竹馬は泥の中に深く沈んでいきます。でもフランソワは竹馬の上で安全でした。やっとリーダーの羊にたどりついて，羊を泥からひきあげようとした時，竹馬がじゃまで羊を押えることができないことに気がつきました。それで竹馬をぬぐことにしました。彼はかがんでふくらはぎにしばりつけてあるひもをほどこうとしてまず頭を泥の中に入れ，左の竹馬を泥の中にすべりこませました。気ちがいのように彼は顔から泥をふりはらい，ひもをぐいとほどきました。ほどいた竹馬を泥の上にならべて立ってみると，泥の深さはたった



裁きのイエス

ダリン H. オークス*

ユダヤの法廷はナザレのイエスに，神を冒瀆した者として有罪を宣告した。しかしイエスはこの罪で十字架にかけられたのではなかった。十字架のはりつけはユダヤのではなく，ローマの処刑方法だったからである。イエスは反乱罪に問われて，ローマの裁判官のもとへ連れて行かれた。しかしイエスは無罪を宣告されたのである。それでは，なぜイエスは十字架にかけられたのだろうか。それは，それまで3度もイエスに無罪の宣告をしてきたローマの総督が，卑劣にも祭司長たちに扇動された暴徒の叫びに耳を貸したからである。イエスは，ユダヤの民にけしかけられたローマ人によって殺害されたのである。

暗殺の計画

ユダヤの指導者たちは法律に背いてまでもイエスを捕えて裁いた。学者たちはイエスの有害行為を12以上にもわたってあげている。そのうちのいくつかを以下にあげる。イエスは夜間に拘引された。イエスは裁判を受ける前にたった一人の裁判官によって尋問を受けた。ユダヤの参議院は夜間にイエスの裁判をした。さらにある時は禁じられている祭の日に裁判をした。裁判が開かれてその日のうちに判決が下された。それも被告の自供だけに基いていた。

これら違反行為はすなわち，ユダヤの指導者たちがイエスの処刑を非常に急いでいたことを物語っている。なぜ敵はイエスを日中に捕えなかったのか。またどうして参議院は必要な裁判がユダヤの祝日にかからないように日にちに余裕を持たせなかったのだろうか。イエスを捕えた人々は，なぜ大祭司の前で，イエスを不法な手段で個人的に尋問したのか。そして，ユダに銀貨を支払って主を裏切らせた陰謀者たちは，イエスに罪をきせるためになぜ偽証者を用意しなかったのだろうか。イエスが捕えられてから裁かれるまでの経過を見ると，最初の策略が失敗したため，陰謀者たちが後からあわてて計画を立てなおしたように思える。

ユダヤの指導者たちは，度々イエスの言葉じりをとらえて落し入れようとしたが失敗に終っているため，公式の裁判でイエスと対決することをためらったに違いない。そして，イエスを死刑に処するだけの罪を立証するのがむずかしいことを知っていたのであろう。その結果，三福音書に記されているように，祭司長たちや律法学者たちは，策略をもってイエスを捕えたうえ，なんとかして殺そうと計ったのである。（マタイ26：4，マルコ14：1，ルカ22：2参照）そこに記されていることは，捕えて裁判にかけるという策略ではなく，暗殺の計画であった。もし正式な役人が日中にイエスを捕えていたとしたら，恐らくイエスを見つけて確認するためにユダを使う必要はなかったであろう。

* 現在シカゴ大学の法学教授であるダリン H. オークスはブリガム・ヤング大学で文学士を受けた後，1957年にシカゴ大学の法学博士号を受けている。4冊の著書を持ち数々の記事を書くかたわら，シカゴ大学法律評論の編集長をつとめて来た。現在，法律関係の雑誌の編集委員でもある。夫人と5人の子供と共に，（イリノイ州）シカゴ・サウス・ステーキ部，ユニバーシティ・ワード部に所属している。長年ステーキ部伝道部長をつとめてきたが，現在は第一副ステーキ部長の職にある。

夜の法廷

しかし，その夜「剣と棒とを持ってついて来た大ぜいの群衆」を率いたユダがやって来て，市外のさびしい所にいたイエスを襲ったのである。（マタイ26:47，マルコ14:43参照）殺すことが彼らの目的であれば，どうしてイエスを縛ってアンナスのところへ引き連れて行ったのであろうか。恐らく，暗殺するには，あまりにも多くの目撃者がいすぎたのであろう。あるいは，剣で耳を切られたことにより大祭司のしもべが暴徒の一人であったことがわかったため，大祭司に罪がかかることを恐れた暴徒は暗殺計画をあきらめなければならなかったのかも知れない。どちらにしても，最初にイエスが連れて行かれたのは，かって大祭司であり，当時もユダヤの政界でかなりの地位を占めていたアンナスのところであった。どんな裁判手続をもってしても，この夜の出来事を弁明したり，正当化することはできない。計画が失敗に終ったので，おびえたしもべたちは新しい指図を求めなければならなかった。そのためにとった行動としてなら，説明がつくであろう。イエスは彼らのなすがままに従ったように見える。しかし，イエスは民衆の指導者であり，興奮したガリラヤ人たちがイエスを連れ去った人々を知っているということで，彼らはイエスを注意して扱わなければならなかった。

参議院において特別に夜の会議が開かれ，イエスは裁判官たちの前に引き出された。祭司長たちはイエスに不利な証言をする証人を探したが，どこにもいなかった。偽りの証言をする者もいたが，その証言は事実関係において矛盾しており，ユダヤの法律では認められなかった。イエスはその証言の間黙って立っていた。それはイエスに与えられた権利であった。裁判に先立って被告が告訴理由を聞き，罪状を認めるかあるいは認めないといった英米の習慣と違って，ユダヤの法律では完全な黙秘権が与えられていた。そして，被告に不利な証言がなされないうちは正式な告発とはならなかった。このように間に合わせで計画された裁判では，イエスに不利な証言を持ち出すことは無理であった。そして彼らの証言にはあいまいな点が多かった。律法学者の中にはイエスに反乱罪を唱えたり，にせ予言者あるいは神を冒瀆する者と言う者もあった。

ついに，黙秘権を守る厳粛な規則を無視して，大祭司はもったいぶった態度でイエスに，神の御子であるかどうか答えるように命令した。イエスは「わたしがそれである」と答えた。すると大祭司は大げさにその衣を引き裂いて言った。「どうして，これ以上，証人の必要があろう。あなたがたはこのけがし言を聞いた。あなたがたの意見はどうか。」（マルコ14：63，64）法廷は満場一致をもってイエスに死刑の宣告をした。

イエスは自ら進んで真実の答えをしたことにより，敵に有罪の宣告をする手段を与えたのであった。イエスの命は，だれかがそれを取り去るのではなく，御自身から捨てるのである。それは裁判についても言えることであった。イエス御自身が話す気にならない限り，どんなに不法な手段をとってもイエスの罪を宣告することはできなかったであろう。

イエスが普通の人間であったら，判決は法律的に正しかったと言えるであろう。それは，神聖な力を汚しあるいは侵害する言動が神を冒瀆することであり，死刑に値する罪だったからである。しかしイエスは普通の人間ではなかった。「神の属性と権能を口にしても，恐ろしい瀆神罪にはなり得ない唯一の人が，神を冒瀆する者としてユダヤの裁判官の前に立っておられた。」[1]

ポンティオ・ピラト

昼になって，参議院は再び会議を開いて判決を確認した。それから彼らはイエスを縛って，ローマの行政長官あるいはユダヤの統治者としてイエスの死刑を命ずる権限を持つ唯一の人，ポンティオ・ピラトのもとへ連れていった。[2]

最初に祭司長たちは，ユダヤの法廷で有罪判決が下されたという理由だけで，ピラトにイエスの死刑を宣告させようとした。ピラトはこれをことわった。こうして，告発者たちは裁判をやりなおさなければならなかった。イスラエルの神を冒瀆してもローマの法廷では罪にならなかったので，彼らは新しい罪状を作らなければならなかった。そこで彼らは，イエスが徴税を妨害し，民衆を扇動して自らを王と呼ばせたとして，反乱罪のかどで死刑の宣告をした。告発者たちの証言を聞き，そして「わたしの国はこの世のものではない」というイエス御自身の説明を聞くと，ピラトは次のように判決を下した。「わたしはこの人になんの罪もみとめない。」（ルカ23：4）祭司長たちは再び激しくイエスを非難し始めた。思いあまったピラトは，責任を逃れるよい機会と見て，ちょうどその頃過越の祭のためにエルサレムにいたガリラヤの領主ヘロデのもとへ，ガリラヤの囚人イエスを送りとどけた。しかし，何も言わず威厳をもって立っているイエスを裁く根拠が見あたらないので，ヘロデはイエスをピラトのもとへ送り返した。

ローマの判事に勇気と確固たる態度があったら，無罪を宣告した人を放免したであろう。しかしピラトには勇気も確固たる態度もなかった。彼は自分の周囲に争いが起こるのを非常に気にして，こんな小さい所でも革命が始まるのではないかと恐れていた。しかも彼の地位は不安定なものであった。ピラトは，年老いたティベリウス・カイザルがカプリへ退いた後，ローマ帝国を委ねられた執政官セジャーヌスによってこの職に任命されていた。しかしティベリウスはその頃ローマに戻って来て，セジャーヌスとその官僚たちを捕えて死刑にしたのだった。上司の失脚と死刑にあって，ピラトのロー

マにおける地位はあやうくなっていた。そこでピラトは，彼の地位を狙うローマの陰謀に対抗するため，ユダヤの指導者たちの支持と協力を受ける必要があった。ピラトには，民衆の不満を鎮める力がなかった。また，自分がエルサレムに対してとって来た高慢な態度によって，有力なユダヤの指導者たちが直接ローマに反抗したために皇帝から叱責を受けたこともあった。ピラトはいつになく祭司長たちのこのするどく巧みな言葉にのってしまったのである。「もしこの人を許したなら，あなたはカイザルの味方ではありません。」（ヨハネ19：12）

「十字架につけよ」

あとはよく知られている通りである。イエスの無罪を知りながら，完全に放免することを恐れたピラトは，当時習慣によって過越の祭に放免することになっていた囚人に，群衆がイエスを指名するのを待っていた。しかし祭司長たちは陰謀を計り，群衆を「扇動」あるいは「説き伏せて」，もう一人の囚人バラバを選ばせた。（マタイ27：20，マルコ15：11）イエスをどうしたらよいか，とピラトは群衆に尋ねた。何度も群衆は繰り返した。

「『十字架につけよ』ピラトは言った。『あの人は，いったい，どんな悪事をしたのか』。すると，彼らは一そう激しく叫んで，『十字架につけよ』と言った。それで，ピラトは群衆を満足させようと思って，バラバをゆるしてやり，イエスをむち打ったのち，十字架につけるために引きわたした。」（マルコ15：13〜15）しかし，ピラトは祭司長たちと群衆の前で手を洗って再び言った。「わたしは，彼にはなんの罪も見い出せない。」（マタイ27：24，ヨハネ19：6参照）

事態は祭司長や長老たちに扇動された群衆の思う通りになった。カナダの著名な法律家は述べている。「法律史のどこを探しても，正当な権限をもつ法廷によって無罪と宣告された囚人が，その無罪を宣告した判事によって死刑にされた例を他に見つけることはむずかしい。」[3]

1，ジェームス・E・タルメージ著「キリスト・イエス」P.509

2，一説によると，ユダヤの指導者たちは，神を冒瀆するというような宗教的な罪に対して，（石を投げて）囚人を殺す権力を持っていた。彼らは，民衆の指導者を死刑にする時だけはローマ帝国に責任が行くように，ローマ式の処刑方法をとったという。しかし，大方の意見は聖書のとおりである。ヨハネ18：31を参照のこと。

3，ジェームス　C・マクルアー著「裁きのイエス」The Trial of Jesus, 1964年版
オンタリオ最高裁判所々長である著者は，ユダヤの指導者たちがイエスを拘引するよりはむしろ暗殺しようとしていたという意見を持っている。

1970

はじめに神は天と地とを創造された。神は光をやみから分けられた。神は水を一つ所に集め，かわいた地を現れさせたもうた。神は青草と種をもつ草と実を結ぶ果樹とをはえさせられた。神は二つの大きな光を造り，星を造られた。神はすべての動く生き物を創造された。「神が造ったすべての物を見られたところ，それは，はなはだ良かった。……」（創世記第一章参照）

はじめというのはいつも何か興奮をおぼえ，多少の恐れを感じるものですが，反面期待と驚きと喜びに満ちているものです。そして，私たちはここに新しい時1970年代を迎えました。どうしたらこの70年代を「はなはだ良く」することができるでしょうか。

創造に関して聖典から三つの聖句を引用し，それらを，私は70年代を輝かしいものとするための秘訣の要素としたいと思います。

要素その一：目的　主が述べられているように創造をはじめるにあたって，目的がありました。すなわち「人に不死不滅と永遠の生命とをもたらす」（モーセ1：39）ことです。この目的は変えられることがありませんでした。神の創造には，非常な正確さを備え，細部にわたる配慮がなされ，また元素を精選し，創造者を訓練する計画がありました。宇宙には秩序があったのです。

トーマス・カーライルはこう言っています。「非常に年若い者か愚かな者を除いて，人は明確な目的を心に抱かずして生きることはできない」。私たちは天地が創造された際の，偉大な永遠の目的と同じような目的を，私たちは行動や思いのうちに持とうではありませんか。綿密な計画を立て，目的を達成するための最も良い方法を考え，計画を実行に移し目的を達成するために必要なことは何でも全力を尽す，そのような目標を立てようではありませんか。このことをはじめに行なってください。

秘訣の要素　その2：日常生活に喜び，歌，ほほえみ，善意をもとう。

年代の秘訣

マーベル　ジョーンズ　ガボット

主はつむじ風の中からヨブに話しかけて，創造のはじめについて暗示しておられます。

「わたしが地の基をすえた時，どこにいたか。……かの時に明けの星は相共に歌い，神の子たちはみな喜び呼ばわった」（ヨブ38：4，7）

ヨブもきっと私たちと同じように答えたことでしょう。私たちはそこにいて，神が作りたもうた地球と私たちが地球を訪れる計画とを受け入れ，共に歌いました。創造の時，私たちは地球に来ることのできる機会を得て，喜びの声をあげました。ですから，私たちは喜びを持って生活しようではありませんか。

もし，私たちが子や孫に祝福を与えることができるとしたら，それは元気はつらつとすること以外にないでしょう。イエスはたびたび弟子達に，「元気を出しなさい」（欽定訳ヨハネ16：33）と言っておられました。これは，わずかなことであきらめないで，信仰と勇気を持ちなさいということです。肩を組み，頭を上げて進みなさいという意味であり，イエス・キリストの福音の光を輝かし，私たちをとりまく人々に，関心を示しなさいという意味です。

また，私たちが生きていることに，そして70年代の10年間も生活したいと望んでいることに喜びの声をあげるという意味です。人生はロールスロイスやミンクのストールによって生きるのではなく霊によって生きるという意味です。「元気を出しなさい」という言葉は，喜んで与える賞賛の言葉の中に，そしておのずと感じ理解されるもの言わぬため息の中に，歓喜と笑いの中に，奉仕と愛と信仰の中に，生まれます。

マッケイ大管長はこう言っています。「だれにも，世のすべての人々に影響を与えている雰囲気とか，輝きがあるものだ」元気はつらつとしていることを，私たちの雰囲気にしようではありませんか。そして，霊が喜びの声をあげるようにしようではありませんか。

要素　その三：イエス・キリストとイエス・キリストの認めたもうすべてのものを，私たちの生活の一部にしよう。

ヨハネはこう言っています。「初めに言があった。言は神と共にあった。そして言は肉体となり，わたしたちのうちに宿った」（ヨハネ第一章参照）

言葉すなわち神の御子は，天地創造のはじめにいたまい，私たちと共に叫び歌い，肉体を持ってこの地上に住みたまい，そして死すべき体より得られる喜びを得，人間としての悲しみを味わい，私たちのために死にたまいました。イエス・キリストゆえにはじめがあったからです。

偉大な犠牲により，主は私たちに悔い改めの賜を与えられました。この賜がなかったら，創造のはじめも意味をなしません。すべてはじめは，古きを変え，すでになした事柄に執着せず，キリストのきよめの賜を受け入れるところに始まります。

「この言に命があった。そしてこの命は人の光であった。」（ヨハネ１：４）私たちはキリストをもっとよく知らなくてはなりません。キリストが私たちのためになしたもうたことを知り，この偉大な方を受け入れなくてはなりません。世相の動揺した70年代にあって，私たちは主の道を自分の道とし，主の模範に従い，乱れた日々にあって，主の教えを道徳の基準としようではありませんか。この10年間はすばらしい冒険の毎日になることでしょう。イエス・キリストを知り，主の前にあって心をなごませる10年間です。

不可能ですか。いや，やってみましょう。

その秘訣は

1　よく検討された目的と計画
2　元気を出し，喜びにあふれ，歌を歌う
3　イエス・キリストの光と絶えず共にある。

これらの秘訣を実行した後，一日，一年，十年をふりかえって，私たちの作ったすべてのものを見，「それは，はなはだよかった」と言えたら，どんなにすばらいしことでしょうか。

祈りの

時計は移りゆく時のしるしであり，私たちの生活が巡る舞台の象徴です。祈りはいついかなる状況にあろうとも，天父と話したいと思う時にすべきです。私たちを祈りにかりたてる時を以下にあげてみましょう。

1. 導きを求める祈り

これは，人生で個人の決断を下すために霊感を求める祈りです。これにはもちろん，契約の締結，職業の選択，家の購入，仕事上の問題等，この世的な事柄も含まれます。私たちはこの祈りをする前に，予備知識を得，関係のある資料を集め，証拠を検討し，英知を用い，進取的な態度をとり，その後で聖霊に尋ね求めるべきです。

2. 交わりを求める祈り

この種の祈りは，神との静かな話し合いです。私たちは仕事や学校へ行く途中でも，家事をしている時でも，庭で雑草を抜いている時でも，神に対して心を開きたいと思っているでしょう。神との個人的な会話は，考えや喜びを共にしたり，悲しみや痛みを打ち明けて楽にすることだと思われます。この祈りは，人生のあらゆる面について適用されます。

3. 緊急に必要な場合の祈り

この祈りはそうたびたびありません。それは，私たちが主の導き，指示，助け，愛，理解を必死になって求めるような非常時の場合です。私たちは真にへりくだって心を開き神に近ずきます。霊が震え，祈る時に心が苦もんや恐れにおののく場合があります。

4. 許しを求める祈り

このような嘆願の祈りは，普通だれかを攻撃したり，戒めを破ったりしたことを認め，深い悲しみを味わった後にしま

時

ビクター B. クライン

す。後悔の涙，良心の呵責，起こったことを償いたいという気持が伴うものです。私たちは隔たりをなくし，再び正しい道に帰ることができるよう許しと主の慰めのみたまを求めて神に手をさしだします。

5. 守りを求める祈り

これは，旅行に出かける前，兵役，長い旅，伝道，学業のため家を離れる等の理由で愛する人を送り出す前，また家族がしばらくの間別れ別れに暮す時にする祈りです。知恵を使って正しい判断を下し，注意を怠らず，安全を心がけることができるように，事故や災難から守られるように，と祈ります。

6. 感謝の祈り

私たちは，受けた祝福，安全に旅を終えたこと，病気の子供がいやされたこと，生命そのものが与えられていることに感謝して祈りを捧げます。この祈りは，天父の力が私たちの生活の内にあることへの感謝です。

7. 愛する人のための祈り

両親が子供に対して，夫婦がお互いに，子供が両親に対してというように，愛している人や心配している人が苦痛や苦悩を味わっていたり，孤独や人生の危機にある時に，私たちは気がかりに思うものです。そのような時，私たちは祈ります。その祈りはおもいやりに由来するものです。

8. 食事の祈り

これは，私たちのために作られた食事を神が祝福したもうように願う毎日の祈りです。この祈りで地の恵みをたたえ，天父が私たちの栄養のために造りたもうたすべての物に感謝します。

9. 家族の祈り

これは家族がそろって祈る特別な祈りです。この祈りは家族に一致をもたらすだけでなく，子供たちに天父と話す方法すなわち祈りの形と態度を教えます。

10. 慈愛に満ちた祈り

これは，自分と直接関係がなくとも神の助けを必要としている人々のために捧げる祈りです。ためらわずこの祈りをするとすれば，私たちと恐らくは関係のない人や個人的に心配していない人のために，キリストの愛と関心を表わす最高の形です。こういう人々は，私たちと同じ町内，同じ市あるいは遠く離れた所にいるかも知れません。とても知り合いになれるような人でないかも知れませんし，全然知らない人かも知れません。けれども，たとえその人がだれであっても，私たちはその人に助けと祝福が必要なことを知っており，その人のために祈るのです。

11. 健康を願う祈り

これは，事故にあったり，健康を損ねた時に捧げる祈りです。病いがいやされ，早く健康が回復するように天父に祈り求めます。神権者の祈りと灌油を受けるかも知れません。いつも，「みこころのままになりますように」という言葉で終ります。

12. 教会での祈り

この祈りは，会衆またはクラスを代表して一人の人が，神を礼拝し，神について学ぶ特権にあずかれたことを感謝し，集会の間みたまが共にあるよう祈り求めます。

ひざがしらのところまでしかないことに気がつきました。フランソワにとってはひざ頭の深さであっても，もがいている羊にとっては大変なことでした。

「フランソワ！フランソワ！手つだおうか。残りの羊はだいじょうぶだよ。」ジャンは泥沼のふちに立っていました。彼はまだ竹馬をはいていました。突然，フランソワにある考えがうかびました。

「竹馬をぬいで，ぼくの竹馬をもって！」フランソワは弟にそうよびかけ，かがんで二枚の板をなげました。「さあ，4つの竹馬をいっしょにしばって。いいかい，ぼくが泥においたようにするんだ。二人でいかだをつくって，ぼくがその上に羊をおしあげるからね。」

フランソワがいかだの上にのせようとしてリーダーの羊をつかまえた時，羊はなきわめいてあばれました。でもいったん泥からひきあげられると羊はそれが安全であることがわかったらしく，橋をわたるようにいかだを走ってわたりました。

「よかった」ジャンがいいました。「ごらんよ，他の羊たちが来たがっている。さあいそいで！来た羊をぼくがつかまえるよ。」

やっと全部の羊が渡りおえました。

さいごにフランソワが泥沼から上ってきた時，手は氷のように冷え，泥まみれになっていました。今までに彼はこんなに疲れたと思ったことはありませんでした。けれど羊はみな無事だったのです。

二人が土手の草原にこしをおろして竹馬をきれいにしていた時，おとうさんとジャックおじさんが帰ってきました。

「いったい，おまえたちは何をしてたんだい。」ジャックおじさんが大声で言いました。

ジャンがかけよっていき何が起こったかを説明しました。ジャンは年下なのに，説明することにかけては，フランソワよりも上手でした。

「でも，ぼくたちは竹馬を少しもいためなかったんだよ，パパ」とジャンはいいました。

「見て，ぼくたち，新品のように，きれいにみがいたよ」

パパとジャックおじさんが笑いました。

「たしかに新品のように見えるね」とジャックおじさんがいいました。「でも君たちのママが，泥だらけの君たちを見るまで，これは言えないね。それに羊たちもね」。そういって

ジャックおじさんは首をよこにふりました。

「それは，おまえたちの午後の仕事だね」とパパはきびしい声でいいましたが，その目はかがやいていました。「良い羊飼がそうするように，自分をきれいにするまえに，羊をきれいにしてあげるんだろう？」

パパはジャンの頭をなでて，フランソワの肩に腕をおいて，「おまえたちは不注意だったが，ちゃんとそのつとめをはたしたのだ」と言いました。「問題にぶつかったらまっすぐに立ちむかい，逃げたりしないということを，おまえたちはこうして一つ学んだのだよ。」

たいへんな事が起こったとき二人の少年は羊から逃げたでしょうか？　フランソワは決してそんなことはしませんでした。彼はお父さんが言ったことの意味がはっきりわかりませんでした。たぶんそれは農場に歩いて帰るときにフランソワが心に感じたことの中にあるのかも知れません。竹馬を，肩にかついで運んでいるのに，なぜかまだ，竹馬をはいているような，何か自分の背が高いような気持がするのでした。心の中に，生まれてはじめてのあたたかい気持が広がってくるのでした。なぜかそのわけは知らないけれど，たぶんママやジャンが何度も味わっているさわやかで，心の内で幸せを感じるほのぼのとした気持なのでしょう。それは，ほんとうにとても良い気持でした。

雷雨

ルシール　C.　リーディング

入道雲がもくもくと西南の空にでてきました。ずっとそれを見ていたラッチェルは，遠くでいな光りがして，低い雷の音がきこえたとき，おもわず身ぶるいしてしまいました。そしてひとりでいるのがこわくなりました。おねえさんやおかあさんも家にいたらきっとこわがったでしょうが，それでもみんなといっしょにいるほうがずっといいとラッチェルは思いました。みんながこんなに何時間も帰ってこないとは思ってもいませんでした。自分もみんなといっしょに行けばよかった。本を読んでしまいたいからといってどうして一人だけ家にのこってしまったのだろう，そうラッチェルは思いました。

黒い雲がどんどん流れていくのをしんぱいそうに見まもりながら，ラッチェルはずっとおとうさんのことを考えました。これまでも何度か，なぜおとうさんは雷雨がくるといつもベランダのところにすわって，やむまでそうしているのだろうとふしぎに思っていました。おとうさんは，ときどきラッチェルや家の人をよんでいっしょにすわるように言いました。けれどラッチェルはこわくて外にでていくことさえできなかったのです。おねえさんやおかあさんだってきっとそうだろうとラッチェルは思っていました。

とつぜん強い風がふいてきて，木々がはげしくゆれだしました。二階のへやの窓がバタンとすごい音をたてたとき，ラッチェルはとびあがりました。大きな雨のつぶが一つぶ落ちてきたちようどそのとき，家の前に車がとまって，お父さんがいそいで家の中にかけこんできました。「おまえのことがしんぱいだったものだからね。さあ，こんばん最高のよびものを，特とう席で見物でもするか」。お父さんのこの言葉をきいたとき，ラッチェルはうれしくて心臓がとまるのではないかと思うほどでした。

ラッチェルはお父さんのあとについてベランダに出ました。お父さんは二つのいすをよせてすわり，かた手でラッチェルのふるえている手をとってしっかりにぎりました。「なんてきれいな光をはなつんだろう」お父さんはしずかに言いました。「天然の花火だ。いいかい，いくらこわがっていても雷雨はやみやしない。それよりも雷のもつうつくしさや，いだいな力を自分からすすんで知ろうとするほうがずっと楽しいし，このふしぎな世界に住んでいられるということに心から感謝する気持さえおこってくる。ただこわがっている人たちは，その間に本当に多くのものを失っているんだよ」

お父さんの静かな声をききながら，ラッチェルは顔をあげ空を見わたしました。いなづまはあとからあとから光をはなち，雷のすさまじい音がつづけざまに二人の耳をうちました。生まれて十年，ラッチェルはまだ一度も本当に雷を見たことがなかったのです。ラッチェルはとてもうつくしいと思いました。

そしてそのとき，ラッチェルはおとうさんに手をしっかりにぎられたまま，自分はこれから一生世界の美しいものをすすんで見よう，そしてどんなときにもゆうきをもとうと決心しました。たとえそれが雷であっても……。

職業の選択

ジョン H. バンデンバーグ　管理監督

歴史的に見ると，一般に息子は父親の職業を継いでいた。これは家族の姓にあらわれており，先祖の職業の名前が姓になっている。スミスという姓は鍛冶屋のブラック・スミスに，ハンターは狩人に由来する等である。

過去において，職業の選択範囲は非常に狭められていた。主として職業訓練の場は家庭であり，両親が指導に当った。しかしながら，今日私達は文字通り何千という職種を選択できる。このように職種が多岐にわたっていることが，かえって若人を混乱させることもある。若人はこう迷っている。

「私は何に一番むいているのだろう」「大学へ行こうか，それとも職業訓練学校へ行こうか」「家族を養えるほどになれるだろうか」

若人にとって，一生の仕事を何にすべきかという問題は，年少の時から心をとらえているであろう。この問題を考えるにあたり，古代の哲人キケロ[1]の言葉を引用してみよう。それは非常に短い言葉だが，応用の余地が十分ある。「自らの持てるものを利用せよ」だれにも他人よりすぐれた点がある。手が器用だとか，人づきあいが良いとか，非常に知的だとかである。一生の仕事を選ぶにあたって，正直に自分の能力を評価することは，重要な第一の段階である。これは一人ではできない場合もある。そのような場合に，両親，監督，学校の教師は適格に評価し，それが参考になる場合も多い。

次の段階は，自分が興味を持ち，喜びを感じられる分野を選ぶことである。人生のかなりの時間は職場ですごす。また，職場における働きとそれを喜びとする度合が，家庭，態度，その他生活の各面に影響を及ぼすのである。仕事が楽しみになるかどうかは，仕事が個人の進歩にどれほどチャレンジと機会を与えるかにかかっている。この点は，職業を検討する際，忘れてはならない。

職業の準備と選択にあたって必要な第三段階は，自ら選んだ分野で訓練を受けることである。今日，高校教育以上の訓練や学習が要求されている。今日の労働界はいわば競争の世界である。より良い訓練を受けた者に，より良い仕事が保証される。高校以上の教育とは，必ずしも大学教育のことではない。多くの職業学校があり，職業訓練を行なっている。

最後に大切な点は，喜んで懸命に働く気持があるかどうかである。生まれつきの能力は別にして，一生懸命働かないで職を変えると，そのたびに欲求不満に陥るであろう。主は働くことに関して次のように述べておられる。「今やわれ主は，シオンに住める民を悦ばず。そは，怠る者その中にあり，彼らの子らもまた今や次第に悪事に増長し，永遠の富を熱心に求めずしてその眼は貪欲を以て充さるればなり。かかることはあるべからず。故にすべからく彼らの中よりこれを無くすべきなり。」（教義と聖約68：31～32）

ほとんどの場合，若い女性にとって最大の仕事はすでに決まっている。それは母親になることである。しかし現代にあって，女性は，子供を置いて働きに出るという意味でなく，緊急の場合や家族に悲劇が起こった時に備えて，仕事のための特別な訓練を受けたり，学校に行くことは賢明である。いずれにしても女性は，良い主婦となり，聡明な母親，妻になるため勤勉に備えをなすべきである。

今日我が国で最も必要な人は，教師や技術者や科学者や政治家ではなく，良い母親である。

デビド O. マッケイ大管長はこう述べている。「世の中で最も気高い召しは母親という召しである。本当の母

親になることはあらゆる芸術のうちで最も美しく，最も偉大な仕事である。名画や名著を世に出し，何百万という人々に影響を与え，賞賛を受けている母親もいる。しかし，人類の与え得る最大の賛辞は，絵画が色あせ，書物や彫像が原形をとどめなくなった後も，健康で麗わしい息子や娘を育て，彼らに影響を残す母親に対して贈られるべきである。」

最後に，成功は自動的にもたらされるものでないことを若人は認識していただきたい。成功は自らその代償を支払う者にもたらされるのである。代償とは，適切な準備，過酷なまでのつらい労働である。もう一度キケロの言葉を引用しょう。「……どんな機会が巡ってこようとも，全力を尽して行なえ。弓をいっぱいにひくように，全心を尽して……」

1 マーカス・トリウス・キケロ
(106—43 B. C.)
ローマの哲学者，雄弁家，政治家。

心のふれあい

ホイト W. ブルースター, Jr.

最近のある地方新聞に，一人の老婦人がホテルの一室に閉じこもり，鍵をかけたまま出てこようとしないという記事がのりました。多くの人々が，この婦人の妙な態度を不思議に思いました。しかし真相が明らかにされるにつれ，人々はこの婦人に対して，また彼女と同じような境遇にある他の多くの人々に対して気の毒に思わずにはいられなくなりました。

人々が同情したのは，彼女が部屋の明け渡しを強いられ，建物のとりこわしがはじまったということではなく，彼女がどんな人かまたどこからやってきたのかを知っている人がだれもいなかったということでした。他の多くの人々と同様，彼女も何年か前に大都会へ移ってきたのです。そして彼女は少しずつ，個人個人が都会化された社会の一部となり個人としての存在を忘れた，互いの名前さえ知らない無関心な人々の群に巻きこまれていったのでした。行くべきあてもなく，めんどうを見てくれる人もいないまま，彼女は心の安らぎを得ようと，自分だけの世界をホテルの一室に求め，そこに引き込もったのでした。しかし，その世界も間もなく打ち破られるところとなったのですが。

現代は，手紙を出すにも私書函を用い，個人を証明するものもコンピューターのカードにパンチされ，隣に住む人と知り合わなくとも生活でき，高速道路が目的地への距離を縮める一方，人間間の距離が増々遠のき，家族や友人に頼らなくとも生活できるという時代です。こういう時代ならばなおさらのこと，次の聖句は大切な意味を持つようになってきます。「汝ら，人の値は神の前に大いなることを憶えよ。」

(教義と聖約18：10)

この聖句は，あなたがた福音を教える者にとって特別な意味を持っています。次のような質問を自問することによって，その意味がはっきりしてくるでしょう。あなたはクラスの人々をどれだけ大切に思っていますか。これまで，クラスの人々に名前も顔もよく知らないまま，救いに関する原則のレッスンをしたことはありませんか。時々欠席する人々も含めて，クラスの全生徒と個人的な触れ合いがありますか。あなたはクラスに出席している生徒一人一人の個性を感じていますか。それとも彼らは，あなたが一週間のうちの数時間をぼんやりと関心を寄せている個性のない一団体にすぎないのでしょうか。あなたはクラスの生徒個人個人に価値を認めてい

るでしょうか。あなたの教え方は心の触れ合いを感じさせるものですか。

イエス・キリストの福音が，生徒たちの生活の中で非常に大切な生きた力を持つようになるものだとすれば，教師は自分の責任を十分に感じた上で，教えなければなりません。生徒は，教師が表面上彼らに関心を示しているのでもなく，毎週ただ機械的にレッスンをしているのでもなくて，クラスの中にあってはもちろんのこと，クラス外での生徒の幸福をも気づかっているのだと知る時，彼らの教えを受け入れようとする気持は何倍にも増すのです。

それでは福音を教える教師は，クラスの生徒個人個人とのつながりをより密接にするために何ができるでしょうか。心の触れ合いを多くするためにはどうすればよいのでしょうか。教師が以下の提案に従うならば，両者にとってよい結果が得られるに違いありません。

1　クラス全員の姓名を覚え，正しい読み方をしなさい。人は自分の名前に自分自身の価値を見出します。だれでも自分の名前を正しく読んでもらいたいものです。名前というものは自己の存在を感じさせ，他の人々も自分の存在を知っていてくれるのだという実感をもたせてくれます。天父は私たちに，み名を正しく用いるようにと言われました。生徒を呼ぶのに「おい，君」とか「そこの青いワイシャツを着ている人」などと言うのは，その人個人の威厳を損じ，無視しているようなものです。

教師がクラスの生徒の名前，あるいはニックネームを覚えようと真心からの努力をする時にはじめて，生徒，教師間のきずなが深まり，信頼と学習に結びつくのです。

2　積極的に生徒の生活環境，趣味，目標などを知るようにつとめなさい。クラスの生徒が特に興味を抱いているようなことを知っておくと，レッスンの時に彼らの実際の生活と関連づけて教えるのに役立ち，さらに教師と生徒をより強く結びつけることにもなります。

これまで非常に効果をあげてきた方法として，クラスの各人に小さなアンケート用紙かカードを渡して記入してもらう方法があります。しかしこの場合は，生徒の生活の個人的な面までせんさくするようなことがないように，また生徒に強制的に答えなければならないというような感情をいだかせないように十分注意する必要があります。この方法を使う時は，生徒をもっとよく知るためにやっているということを知らせなさい。

他に，生徒のホーム・ティーチャー，神権指導者，友人などと話すという方法があります。また，業績，受賞，興味を抱いている話題など学生生活の一面をとりあげているような地方新聞，学校新聞の記事につねに目をとめていなさい。そして個人的に電話をしたり，訪問したり，手紙を書いて賞賛と喜びの気持を伝えるようにしなさい。

3　出欠を正確に記録しなさい。欠席した生徒があれば出席するように励ましなさい。クラスに出席しなかった生徒に，電話をしたり，家庭訪問をするなどして，欠席したことに対し心から心配しているという気持が伝われば，次のレッスンからの出席状態はきっと良くなるでしょう。

たとえ理由があろうとなかろうと，欠席した生徒にとって欠席が無視されることは，自分はクラスの一員としてたいして重要でないという感じ，すなわち先生は生徒がクラスに出席していてもいなくてもそれほど気にかけていないという感じを抱かせるものです。私たちはみな，必要とされているという感じを持ちたいものです。あなたはこれまで，欠席しても誰からも何も言ってもらえない人々が味わう，非常な空虚感を深く考えてみたことがありますか。生徒にあなたがいつも生徒のことを気にかけているということを知らせるようにしなさい。

4　あなたが生徒だとして，先生にこのようにしてもらいたいと思うような態度で生徒に接しなさい。あなたよりも年が若く，経験も知識も少ないだろうからといって，生徒の意見を的はずれのものとみなして無視するようであってはなりません。生徒が心からのべる意見は，身体の特徴と同様その生徒の一部なのです。意見のよしあしにかかわらず，私たちは彼らの意見を尊重しなくてはなりません。

生徒の意見を，ちょうど外科医が非常に難しい手術にたずさわる時のように巧みに処理できる教師は，生徒を助ける多くの機会に恵れることでしょう。しかしこれと反対に，生徒ののべた意見が軽べつされ，批判されあざけられ，あるいは十分な考慮を払われずに軽々しく無視されるなら，教師と生徒の間にみぞができ，その結果生徒は教師に反感を抱き，教師の教えを聞こうとしなくなるでしょう。

5　クラスの生徒にときどき，彼らを知り，教える機会があって感謝しているということを伝えなさい。ただしその言葉をいう時は，それが真心からのものかどうかよく考える必要があります。偽りの感謝の気持をのべても，生徒はすぐそれとわかるでしょう。もし自分の感情を偽って言うならば，彼らはあなたの他の言葉をも疑うようになるでしょう。しかし，生徒一人一人と良い関係を作り出すために誠実な努力が払われれば，生徒にのべる感謝の言葉は生徒の学習意欲を高めさせるものになります。

6　クラスの生徒の気分や要求に敏感でありなさい。たとえば，クラスの生徒が目を赤くして，いかにも悲嘆にくれた様子で教室に入ってきたら，心配している気持を静かに態度に示し，助けを与えます。助けたいという謙そんな気持をは

しり書きにした紙切れを，その生徒に手渡せば，きっとうれしく思うことでしょう。そのような生徒がいたらいつでも，あなたが心配しているという気持を伝えなさい。

この他にも，福音の教師が心の触れ合いを多くもてるようなレッスンの方法を数多くあげることができるでしょうが，今ここにあげた6つの提案が手始めとして適当と思われます。教師は，自分とクラスの生徒をもっとかたく結びつける方法にたえず注意を払っていなければなりません。教師としての責任を与えられた者が，その責任の神聖さと「愚かな者のみ人の心を粗末にあつかう」* という予言者ジョセフ・スミスの訓戒を思い起こすなら，生徒をより良く知るために，また彼らにクラスの中で必要とされていると感じさせるためにあらゆる努力を払うことでしょう。このように，福音を教える教師にとって，心の触れ合いをもつということがますます重要になってきています。

＊ ジョセフ・スミスの教え（英文）P137

聖餐の聖句伴奏曲

4月聖餐の聖句

大人日曜学校

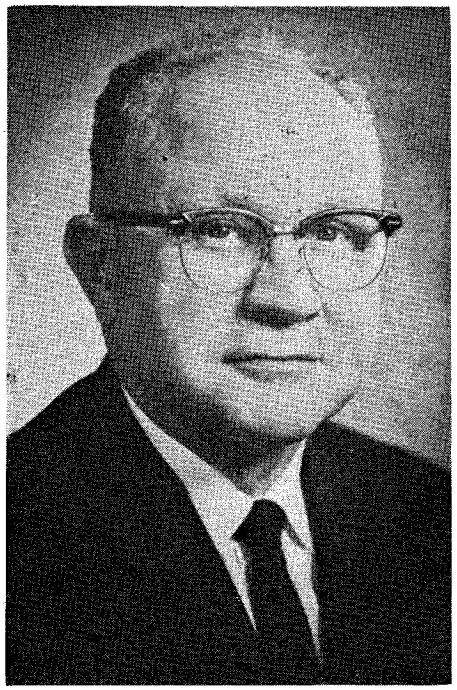
「しかし事実，キリストは眠っている者の初穂として，死人の中からよみがえったのである」

（Iコリント 15：20）

子供日曜学校

「もしあなたがわたしを愛するならば，わたしのいましめを守るべきである」

（ヨハネ 14：15）



日本中部伝道部メッセージ

十二使徒補助　バーナード　P. ブロックバンク

全世界の人々が待ち望んでいた70年万国博がついに開会されました。「人類の進歩と調和」をテーマに，この万国博は全世界の注目をあびています。日本政府は東洋において初めて企画製作されたこの国際的大博覧会に全力を投入して働かれました。史上最大のこの万国博が開幕されるためには，あらゆる限りの努力と莫大な経費が必要でした。建築家並びに設計者は非常に奇抜な企画の夢を抱き，その夢がついに実現されました。

そのような偉大な万国博の中に，モルモン・パビリオンは愛と平和と真理の精神をもって出展されました。この世界的な人類の偉業を背景にして，この地球の生ける創造主，イエス・キリストと神が登場されることは，その目的に十分かなったことであり，正しいことであると確信致します。イエス・キリストの教会の導き主であるイエス・キリスト御自身を，展示を通して，宣教師や聖徒たちによって紹介しています。これらすべての人々は神と全人類への愛に結ばれて，真理の探求のために人々へ働きかけねばなりません。

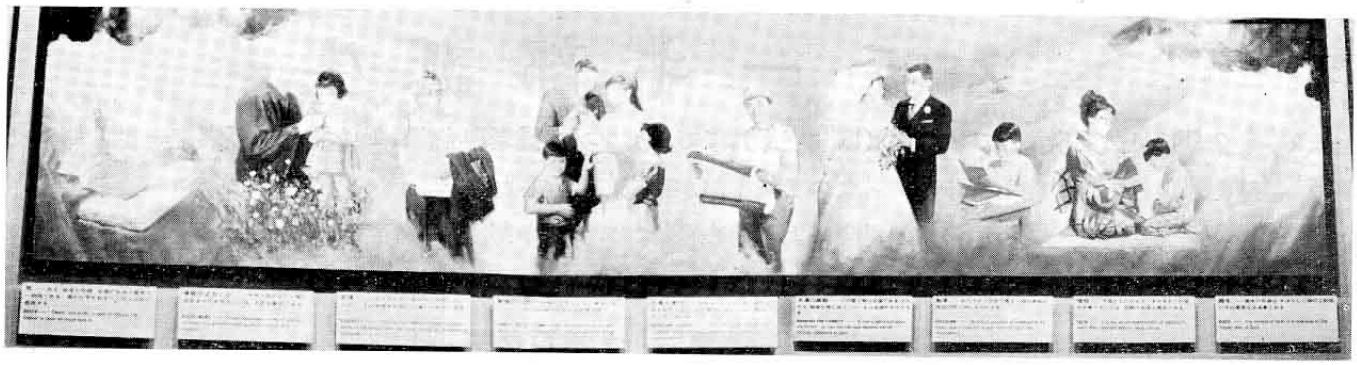
壁にかかった絵画や写真，また彫刻を通して，私たちはキリストの多くの教えを人々の心中に深く印象づけ，また聖霊が私たちと共にあって，人々が霊的に満たされ深い感銘を受けられることを心より望んでいます。私たちは心の中にある愛と真理と平和の精神をもって福音を伝えます。この展示はキリストとその生涯ならびに天父なる神がお与えになった地上での使命を示しています。すべての人々に知らされ，すべての人々が従うに足る完全な模範はイエス・キリストです。イエス・キリストは道であり，真理であり，生命です。

イエス・キリストなしでは誰一人として永遠の父なる神のもとへ帰ることができません。

人生の目的や問題および種々の祝福等が，パビリオン内の壁に掛けられた絵画によって示されています。「人生の目的」，この偉大なメッセージはこれらの絵画によって教えられます。人間の誕生と死は来世において，人が復活し不死不滅と永遠の生命および幸福を得るための偉大な神の祝福として示されています。映画「幸福を探し求めて(幸福の探求)」は，人の誕生，現世の生活，死および天の王国への帰還を描いた素晴しい感動の映画です。この映画の伝えるメッセージは，今まで信じられていた人間の死が深い悲しみであるという観念を変えて，人々に希望と平安を与えることでしょう。モルモン経，予言者ジョセフ・スミスおよびイエス・キリスト教会の回復については，壁の絵画や宣教師の証によって伝えられます。モルモン・パビリオンには心を休めてくれる雰囲気があって，万国博の目まぐるしく動きまわる観客にとって，心のオアシスとなることでしょう。

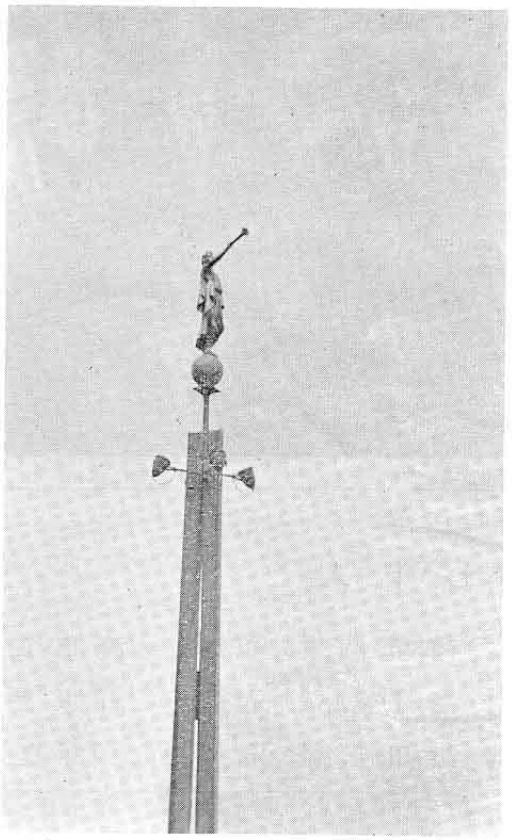
私たち宣教師と聖徒たちは主の「モルモン・パビリオン」において体験することを通して，あまねく祝福を受けるでしょう。

万国博モルモン館献堂式盛大に開かる



去る３月13日＜金＞午後２時よりモルモン館において，約600数十名の来賓と教会幹部のベンソン長老，ブラウン長老，ヒンクレイ長老をお迎えして盛大なモルモン館の献堂式が行なわれました。

これより６ケ月パビリオンを訪問される数多くの人々に私達の教会が紹介され，真実の幸福を求める人々に必ずや感動を与えることでしょう。ここに，今この世紀のモルモン・パビリオンの開幕が告げられたのです。



＊高らかにラッパを響かす天使モロナイ

東洋初の

ステーキ部誕生

3月15日，東京第二ワード部（旧北支部）にて，ベンソン長老御夫妻，ヒンクレー長老御夫妻をお迎えし，日本の聖徒が待ちに待ったステーキ部が東京に設立された。

特別大会はビルス伝道部長の司会により進められ，ステーキ部，ワード部の役員として次の兄弟姉妹が支持された。

＊東京ステーキ部長会

ステーキ部長	田中健治兄弟
第一副ステーキ部長	菊地良彦兄弟
第二副ステーキ部長	相良健一兄弟
書記	丸山周兵兄弟
書記補	工藤勝緒兄弟

＊七十人

磯村昌孝兄弟	渡部正雄兄弟
奈良富士哉兄弟	石坂晃一兄弟
柴田正毅兄弟	（写真右より）

＊東京ステーキ部高等評議員（写真右より）

高橋実兄弟	福井弥兄弟	丹羽三吾兄弟	神崎良太郎兄弟
内山雅亘兄弟	斎藤三正兄弟	児玉栄治兄弟	小室敬兄弟
岡本亮兄弟	水野圭兄弟	柴田倶男兄弟	杉本克巳兄弟

日本東部
日本西部　伝道部新設

ラッセル堀内兄弟　渡辺驥兄弟　新伝道部長に召される

日本における主の御業の発展にともない，新たに二つの伝道部が誕生した。

堀内伝道部長御夫妻

日本東部伝道部（北海道・東北担当）本部所在地　札幌

日本西部伝道部（中国・九州・沖縄担当）本部所在地　福岡

日本東部伝道部を管轄するのは，B. Y. U. 大学の教授ラッセル堀内兄弟で，3月16日着任された。日本西部伝道部は，日本伝道部副伝道部長であり，また，教会翻訳事業部アジア地区マネジャーをつとめておられた渡辺驥兄弟で3月18日着任された。

新伝道部設立にともない，日本沖縄伝道部は，日本中部伝道部と改称された。

渡辺伝道部長御家族

東京ステーキ部

日曜学校会長　八木沼修一兄弟
YWMIA会長　重松紀世子姉妹

扶助協会会長　佐藤栄子姉妹
プライマリー会長　高山洋子姉妹

YMMIA会長　高橋　実兄弟

＊ワード部監督

ステーキ部設立とともに次の六支部がワード部と改称され，次の人が監督に聖任され各ワード部へ任命された。

東京ワード部監督（旧中央支部）今井一男兄弟
東京第2ワード〃（旧北　〃）松下泰洋兄弟
〃第3　〃（旧西　〃）井上龍一兄弟
〃第4　〃（旧南　〃）坂井　圭兄弟
〃第5　〃（旧東　〃）神尾　昇兄弟
横浜ワード部〃（旧横浜支部）浅間玄也兄弟

＊東京ステーキ部長老定員会会長

第一長老定員会	中田嘉之兄弟
第二　〃	福田　真兄弟
第三　〃	重松征史兄弟
第四　〃	斎藤　勉兄弟
第五　〃	岩波信夫兄弟

この大会の翌週22日の午後，東京第三ワード部にて，ステーキ部特別大会が開かれ，次の人が東京ステーキ部補助組織の会長として任命された。

昭和四十二年十二月十八日第三種郵便物認可
一九七〇年四月二十日発行（毎月一回二十日発行）第十四巻第四号

結婚を守るもの

リチャード　L．エバンズ

結婚と幸福な家庭は、ゆるぎない社会、充実したしあわせな人生の基である。この真理は幾度も繰り返し言われている　人生最大の幻滅の一つは、かつては大切だと思い希望をいだいていたものに、時として疑いを抱き、ある時は敵意すら感じるようになることである。デビド　O．マッケイ大管長は言った。「互いの愛の中に太陽のごとき暖かさを感じてよりそってきた夫婦が、その光のなかに誤解と不一致の暗い雲を見ることは、実に大きな悲劇である。」[1]その答えの一部が、ヒューバットハウ博士の詩にあらわされている。「なぜ人々は幸福な結婚を続かせる方法を知らないのか。……あのようにひどく変わるのはなぜか。……人々は苦悩し、失意に沈み、かつては生き生きとして清らかであったあの希望をどうにかして取り戻したいと懇願する。……そのことを告げられる人、そのようにしてあげられる人、自分を必要とする人、共にすべてをわかちあう人、そのような人はどこにいるのか…なにがこうさせたのか。ささいな衝突がつもりつもって、……誤解のために、……わがままと……浪費と……（金銭にかけて責任感がなく、節度を忘れていたのだ）……秘密が習慣となり…共通の趣味を失い、いっしょの活動を忘れた。……離れている二人を結びつけてみたまえ。法廷に出ずとも、二人は霊において離婚するであろう。…きづまりがつのるのを避けなさい。……二人の会話を不平や怒りやぐちなどのつまらない水準にひきさげてはならない。……礼儀を怠ってはならない。……ほめるのを怠ってはならない。あなたたちの始まりはほめ言葉だった。……それを忘れてはならない。伴侶の不完全さが目につく時、鏡の前に立ち、『私は完全な伴侶か』と問いなさい。いつも問いなさい、『私は伴侶として、家庭に私のなすべきことを尽しているだろうか』[2]と」。正直で常識豊かな人格を持った二人が結婚する時、どのような場合にも、どんなことを要求されても、全努力を傾けて家庭を守らねばならない。「一度愛をかちえるのでは不充分である。愛の勝利を保ち続けなさい。結婚を守ることは、結局はあなたにかかっている」[2]。

1. デビド　O．マッケイ、大会説教 1969年4月4日
2. ヒューバット　ハウ、医学博士、「私は結婚を守ることができるか」、サラ　コムストックによる論説より、グッド　ハウスキーピング誌 1935年1月

聖徒の道
1970年4月20日発行
振替口座　東京16226番
発行人兼編集人　ウォルターR．ビルス
発行所　東京都港区南麻布5－8－10
末日聖徒イエス・キリスト教会　電話（442）7438
印刷所　太陽印刷工業株式会社
定　価　100円
予　約　一年間 1,000円（外国4ドル50セント）
電報受信略号　「トウキョウ」マツジツ